

平成 30 年度 新潟県看護協会

職能集会

平成30年 6 月20日(水) 新潟グランドホテル

公益社団法人 新潟県看護協会

平成 30 年度

保健師職能集会

平成 30 年 6 月 20 日

新潟県看護協会保健師職能委員会

目 次

平成 30 年度 保健師職能集会プログラム	1
平成 29 年度 保健師職能委員会活動報告	2
I 保健師職能委員会開催状況	4
II 活動報告	
1 保健師職能集会	5
2 支部保健師職能代表者会議	6
3 産業看護職・行政保健師合同研修会	7
4 保健師・他職種情報交換会	8
5 広報活動	10
III 平成 30 年度保健師職能活動計画（案）	10
別紙 1 保健師職能だより	11

平成 30 年度保健師職能集会プログラム

メインテーマ：輝く自分を取り戻す～ケアする人の心と体のケア～

ねらい： 保健師は、住民等対象とする方々の健康を願い日々仕事をしており、やりがいを感じる反面、ストレスを感じることも多いと思われます。

保健師である前に、一人の「ひと」として、自分らしく心豊かに生き、笑顔で目の前のひとを元気にすることができる —— そんな「ひと」でありたい —— 。

そのための心と体のセルフメンテナンスについて、体験を交えて学び、ケアする人自身が元気であることの大切さを再認識するとともに、今後の日々の業務に活かすことができる機会とします。

日 時：平成 30 年 6 月 20 日（水） 13:30～16:00

会 場：新潟グランドホテル 5階 常盤の間

内容及び日程：

13:00 受付

13:30 開会

あいさつ

平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度活動計画

保健師職能委員長 相馬幸恵

14:00 講演

演題 『輝く自分を取り戻す ～ケアする人の心と体のケア～ 』

講師 一般社団法人セルフアドヴァンス協会

代表理事 水科 江利子 氏

【講師紹介】

保育士を経験後、1986 年ボディワークスタジオ Garage-1 を創立。

2015 年、どなたもが素晴らしい存在である！を実証すべく、自分で自分を癒し高めるサポートとして一般社団法人セルフアドヴァンス協会を設立。運動分野だけでなく、脳と心と体の関係性から、本来の可能性や魅力を引き出し高めることを研究。誰もが簡単に、安全で効果あるメソッド「心と体のセルフメンテナンス・ココカラメンテ®美脳メソッド」を創り、お一人の「自分に安心できる心とカラダと生き方」が家族に、地域に、世の中の幸せに影響する重要性について伝えられる。

15:30 グループトーク、発表

16:00 閉会

平成 29 年度 保健師職能委員会活動報告

保健師職能委員長 相馬 幸恵

1 活動目標

- (1) 地域包括ケアシステム構築の必要性を認識し、保健師一人ひとりが、それぞれの立場で取組を推進する。
- (2) どの職域に所属していても、保健師の専門性の視点や役割を発揮できるようにする。
- (3) 保健師の連携強化とネットワーク構築を図り、いきいきと元気に活動する。

2 活動内容

- (1) 保健師職能集会の開催 平成 29 年 6 月 14 日（水）77 人参加
- (2) 支部保健師職能代表者会議 平成 29 年 8 月 17 日（木）県内 11 支部職能代表者等参加
- (3) 産業看護職・行政保健師合同研修会 平成 29 年 9 月 9 日（土）48 人参加
- (4) 保健師・他職種情報交換会 平成 29 年 11 月 11 日（土）25 人参加
- (5) 日本看護協会の実施する研修への会員派遣（1 人派遣）
 - ① 地域包括ケアシステム構築・推進のための保健師に必要な能力の強化研修
平成 29 年 9 月 21 日～22 日 日本看護協会神戸研修センター
- (6) 広報活動 保健師職能だよりの発行 平成 30 年 1 月発行
- (7) 保健師活動実践集（平成 30 年度発行予定）の原稿依頼

3 活動評価

- (1) 活動目標「地域包括ケアシステム構築の必要性を認識し、保健師一人ひとりが、それぞれの立場で取組を推進する」について
 - 保健師・他職種情報交換会では、「ひきこもり支援について」をテーマに、他職種にも声をかけ実施し、県内での先進的な取組の実践報告や支援のポイントについて学ぶことができた。保健師だけでなく、社会福祉協議会、医療機関等との関係機関・職種の参加があり、地域包括ケアシステムの推進の一環として連携強化をしていく必要性を考える機会となった。
 - 産業保健学会産業看護部会と合同開催した研修会では、「自殺・うつ対策」に焦点を当て職域と行政との連携の必要性や重要性、具体的支援について再確認した。
- (2) 活動目標「どの職域に所属していても、保健師の専門性の視点や役割を発揮できるようにする」について
 - 職能集会では、保健師の個別支援に必要となる「支援力」「コミュニケーション力」を向上することを目的とした講演会を実施した。改めて保健師として対象者や家族と向き合うことの大切さ考える機会となった。
- (3) 活動目標「保健師の連携強化とネットワークの構築を図り、いきいきと元気に活動する」について
 - 支部職能代表者会議では、各支部の活動や加入状況等の共有化を図り、他支部の活動を知る機会となるとともに今後の職能活動の参考となった。また、各支部の保健師の採用や離職状況についても把握でき、今後は新任期の定着や産休育休後の復帰に向けた支援が課題としてあげられた。

- 保健師職能の実施した研修会等の活動状況等を共有化するため「保健師職能だより」を発行した。
- 日本看護協会の実施する研修会に会員を派遣し、研修概要を「保健師職能だより」に掲載した。

4 平成 29 年度保健師会員加入状況

- 平成 30 年 3 月 5 日現在の会員数は、822 名となっている。
- 看護協会への入会更新手続き方法の変更等による減少、産休育休後の再加入者や特に若い世代からの積極的な加入者の減少等の影響か、平成 28 年度より加入者数が減少している。
- 地域包括ケアシステムの推進に向けては、より一層保健師間の連携強化が求められ、加入者数が増加するよう取り組む必要がある。

5 課題と今後の方向性

- (1) 多様な分野に分散配置されている保健師のキャリア形成と自治体保健師の標準的なキャリアラダーの活用を意識した職能活動の展開
- (2) 地域包括ケアシステムの構築に向けた他職種連携と保健師活動の推進
- (3) 日本看護協会の動向や研修の機会を活用し、県及び支部職能の活動の連携強化

職能委員

児玉 恵子 宮島 睦美 藤田 陽子 齋藤 加奈 坂大喜代子 内山美智恵 鈴木 那央

I 平成 29 年度委員会開催状況

開催回数 10 回

開催日時及び検討内容

回数	開催日	検討内容
第 1 回	平成 29 年 6 月 17 日 (土)	1 平成 29 年度活動計画・委員会日程の確認、役割分担 2 支部保健師職能代表者会議の内容検討 3 産業看護職・行政保健師等合同研修会の内容検討 4 保健師活動実践集の発行について
第 2 回	7 月 8 日 (土)	1 支部保健師職能代表者会議の内容確認、役割分担 2 産業看護職・行政保健師等合同研修会の内容検討 3 保健師情報交換会の内容検討 4 保健師職能だよりについて
第 3 回	8 月 17 日 (木)	1 支部保健師代表者会議の流れ確認、準備 2 産業看護職・行政保健師等合同研修会の内容検討、役割分担 3 保健師情報交換会の方針・内容検討
第 4 回	9 月 9 日 (土)	1 産業看護職・行政保健師等合同研修会の流れ確認、準備 2 保健師情報交換会の内容検討 3 支部保健師代表者会議の振り返り 4 保健師職能研修会の講師選定について
第 5 回	11 月 11 日 (土)	1 次年度の活動計画検討 2 産業看護職・行政保健師等合同研修会反省評価 3 保健師・他職種情報交換会最終確認 4 職能集会の内容について
第 6 回	12 月 8 日 (金)	1 産業看護職・行政保健師等合同研修会反省会 (合同) 2 保健師・他職種情報交換会の反省・評価 3 保健師職能だより、保健師活動実践集について
第 7 回	平成 30 年 2 月 17 日 (土)	1 平成 30 年度保健師職能集会について 2 県看護協会総会と職能集会冊子の原稿準備について 3 次年度の活動計画検討 4 保健師職能だより、保健師活動実践集について
第 8 回	3 月 10 日 (土)	1 平成 30 年度活動計画について 2 県看護協会総会について 3 情報交換会について
第 9 回	4 月 14 日 (土)	1 平成 30 年度保健師職能集会について 2 情報交換会について
第 10 回	5 月 19 日 (土)	1 平成 30 年度事業の企画 2 その他

Ⅱ 平成 29 年度保健師職能活動報告

1 保健師職能集会

領域	保健師職能研修	会場	新潟グランド ホテル	受講料	会員 なし 非会員 1,000円
対象	応募数(83人) 参加数(77人) 内訳：会員数72人 非会員数5人)				
日時	平成29年6月14日(水曜日) 13:30～16:30				
ねらい(目標)	心を閉ざした当事者に対して支援の糸口をつかむため、説得力及び支援力を学ぶ。				
講師	押川 剛 氏 (株)トキワ精神保健事務所				
内容・方法	1 平成28年度事業報告及び平成29年度活動計画 2 講演 「閉ざされた心と向き合う」～保健師の『説得力』『支援力』アップのために～ 3 グループワーク ～講演を聞いての感想や明日からの活動に活かそうな～ 4 グループワーク発表、まとめ				
結果・評価 (受講者の意見 感想含む)	○応募者数、参加者数ともに、昨年度の人数よりも増加。事後アンケートでは、参加者の80%以上が参加動機を「内容に関心があったから」と回答している。また、40歳以上の参加者が75%を占めていることから、特に中堅～ベテランに精神疾患に関する研修ニーズが高いと思われる。 ○講演は、講師が日頃参加者の感じている思いを代弁してくれたり、「誰かが悪役にならないといけない！」と参加者へ叱咤激励をしながらケースや家族と向き合うことの大切さを熱く語られており、参加者の共感を得ていた。 ○アンケート結果では95%の参加者が「大変良かった」「よかった」に回答。また自由記載では、「パワーをもらった」「講師のようにできないことも多いが、まず保健師として何ができるのか考えたい」など前向きな回答が多かった。				
企画の評価	○グループワークを短時間でも取り入れたことで、質問などの討議が活発になりよかった。 ○今年度は早くから講師の選定をおこなったため、事前準備、会場設営はスムーズだった。また職能委員会を、当初の日程から職能集会間近に変更したことで、参加状況を把握したうえで打合せができたのでよかった。				
課題	○行政以外の職場に勤務する保健師の参加が少ない。どのように参加を促していくかが課題である。 ○今後も参加者の興味や関心の高いテーマを取り上げていく。アンケートでは、自殺対策やコミュニケーションに関する研修の希望があった。 ○今回、例年より終了時間を30分延長して実施した。来年度改めて職能集会の時間や終了時間について検討が必要。				
担当者	保健師職能委員長 井上 陽子 保健師職能委員 川崎 麻衣 外川 真由美 児玉 恵子 藤田 陽子 宮島 睦美 ◎齋藤 加奈				

2 支部保健師職能代表者会議

領域	保健師職能研修	会場	新潟県看護研修センター	受講料	会員なし 非会員なし
対象	県内 11 支部保健師職能代表者・職能委員 参加者：支部保健師職能代表者 10 名、職能委員 5 名				
日時	平成 29 年 8 月 17 日（木曜日） 13：40 ～ 15：30				
ねらい （目標）	○地域包括ケア推進のために、地域包括支援センターの保健師の現状を把握し、 会員数増加のための対策ができる。 ○保健師の離職及び採用の現状について共有し今後の対策の一助とする。 ○支部活動の情報交換を行い、活動の活性化の機会となる。				
講師	なし				
内容・方法	○平成 29 年度第 1 回全国職能委員会長会報告 ○看護協会加入状況報告 ○保健師の離職と採用について ○各支部職能活動報告 ○連絡：保健師活動実践集、産業看護職・保健師合同研修会、保健師情報交換会、 支部代表者・職能委員連絡メールの活用について				
結果・評価 （受講者の意見 感想含む）	○会員加入方法の変更があったが、昨年同時期と比較すると保健師の会員加入状 況は増加していた。病院、訪問看護ステーションの加入数が増加している。委 託の地域包括支援センターの加入率が低かった。 ○保健師の離職は、定年や結婚退職の他に、新人期の離職があり、新人の定着が課 題となっている。また、離職による補充はあるが増員はない。増員となっても事 務職が減らされ充足されている状況ではない。特に、新人期の離職については、 保健師のキャリアラダーを意識した職能活動の展開が必要となる。 ○各支部、魅力的な研修会を開催している。支部が発行するたよりの交換もでき よい情報交換の場となった。				
企画の評価	○会員状況に関する資料は、看護協会登録数、市町村保健師配置状況、支部長調査 表をもとに職能委員がまとめた。現状を把握するための資料として活用できた。 ○今年度初めて、保健師の離職と採用をテーマにとりあげ、支部代表者と職能委員 の間で現状を共有することができた。新人とベテランでは、感覚に違いがあるこ とが明確となり、新人とコミュニケーションをとる際に配慮すべき点を確認する ことができた。また、新採用の場合、最初に担当する仕事内容が新人期の離職に 影響することがわかった。保健師離職を増やさないために、離職と採用の動向を 把握することは職能活動として意義があると思われる。 ○支部代表者と職能委員のメールアドレスを共有することについて承認された。 活動の活性化に活かすための有効な手段となると思われる。				
課題	○会員状況のまとめには時間がかかり職能委員の負担が大きい。 ○地域包括支援センター等の加入者数が少ないため、周知を強化し、加入者数を 増やしていく必要がある。 ○新人期の離職を防ぐための職能活動について検討する必要がある。				
担当者	保健師職能委員長 相馬幸恵 保健師職能委員 ◎宮島睦美 児玉恵子 齋藤加奈 坂大喜代子 鈴木那央				

3 産業看護職・行政保健師合同研修会

領域	保健師職能研修	会場	新潟県保健衛生センター 4階 会議室	受講料	会 員 なし 非会員 なし
対象	産業看護職 22 人、行政職 25 人、その他 1 人 (会員 22 人、非会員 26 人) 計 48 人				
日時	平成 29 年 9 月 9 日 (土) 13:30~16:30				
ねらい (目標)	自殺・うつ対策に焦点をあて、産業保健と地域保健のお互いの課題や取組について共有するとともに、今後の連携や取組や充実を図ることを目的とする。				
話題提供者 講師	○新潟障害者職業センター障害者職業カウンセラー 内田典子氏 ○新潟市江南区健康福祉健康増進係 坂内理恵子氏 ○恵生会南浜病院院長 後藤雅博氏				
内容・方法	○話題提供 産業保健と地域保健それぞれの立場から、自殺・うつ病対策について話題提供。 ・「リワークにつないだケースの紹介～リワークの紹介、利用者の傾向、支援の流れについて」 新潟障害者職業センター障害者職業カウンセラー 内田典子氏 ・「自殺予防事業への取り組みについて」 新潟市江南区健康福祉健康増進係 坂内理恵子氏 ○講義「最近のうつ傾向の特徴とハイリスク者への支援」 恵生会南浜病院 院長 後藤雅博氏 ○グループワーク、発表 話題提供、講義の感想や質問、ハイリスク者支援等で日頃感じていることや困っている事、産業保健と地域保健の連携を進めるための取り組みなどについて。 ○質疑応答、グループワーク助言				
結果・評価 (受講者の 意見感想含 む)	○話題提供 2 題については、「大変参考になった (55.6%)」「参考になった (44.4%)」と評価が高かった。特に新潟障害者職業センターのリワーク支援の取組はあまり聞く機会がなく、良かったという意見が多かった。 ○後藤先生の講話・助言についても、「大変参考になった (88.9%)」「参考になった (11.1%)」と評価が高かった。わかりやすく参考になったとする意見が多かった。 ○グループワークが予定よりも短くなったが、それぞれの立場での困りごとや、職域、地域それぞれの連携への思いを共有できた。				
企画の評価	○参加者数 48 名と多く、業務としてだけでなく、職場内の問題としても関心が高かったと思われる。 ○自殺・うつ対策における職域と地域保健の連携のきっかけ作りになったと思われ、研修目的は達成できた。				
課題	○産業看護との合同研修は 5 年目。合同打合せを 7 月、12 月の 2 回実施。 ○7 月の合同打合せで企画詳細を詰めたが、以下の点から産業看護との打合せの時期をもっと早めた方がよい。 ・事例提供者の選定・依頼等に準備にあてる時間が少なかった。 ・研修の申込期間が短くなってしまった。 ・企画変更に対応する時間が少なかった。				

	○前年度の決定事項が委員交代後もスムーズに引き継げるよう留意が必要。 ○研修センター外の会場だと、借用に係る打合せ、当日の会場準備等時間を要する。
担当者	保健師職能委員長 相馬幸恵 保健師職能委員 ◎藤田陽子 児玉恵子 宮島睦美 齋藤加奈 鈴木那央 内山美智恵

4 保健師・他職種情報交換会

領域	保健師職能研修	会場	新潟県看護 研修センター	受講料	会員 なし 非会員 なし
対象	応募数(29人)、参加数(25人)、会員数(21人)、非会員数(4人) ※参加25人の所属内訳：行政20人、病院2人、訪問看護ステーション1人、 個人1人、社協1人 ※参加25人のほかに、話題提供者3人、助言者1人、保健師職能委員7人				
日時	平成29年11月11日(土曜日) 13:00~16:15(受付12:30~)				
ねらい (目標)	ひきこもり支援に対し先駆的に取り組んでいる機関からの報告や、普段からひきこもりの本人や家族の支援に関わっている助言者から、支援のヒントをもらい、他職種がお互いに学び、情報交換をすることで、今後も生き活きと保健活動ができる。				
話題提供者	① 新発田市健康推進課 地域保健第2係 主任 保健師 塚野真理子氏 ② 新発田市社会福祉協議会 地域福祉課 主任 社会福祉士・介護福祉士 田村涼子氏 ③ 佐渡市市民福祉部 子ども若者課 子ども若者相談センター 主任保健師 田村京子氏				
内容・方法	【話題提供】 行政や社会福祉協議会が、他部署他機関と連携をしながら実践しているひきこもり支援について報告があった。 ① 新発田市 塚野氏 「学校生活に適応できず『ひきこもり』となった方への保健師の関わりについて」 ② 新発田市社協 田村氏 「生きづらさを抱える若者支援について～新発田市社協の取り組み～」 ③ 佐渡市 田村氏 「みんな違ってみんないい～『つながり』を大切にしたい取り組みから」 【情報交換】 ・グループに分かれて、話題提供を聞いて思ったことや感じたこと、質問したいこと、日頃どのような思いで活動をしているのか等、自由に話し合った。 【全体発表・質疑応答】 ・グループワークで出された意見のほか、話題提供者への質問も多数出された。 【助言】 助言者：新潟青陵大学大学院看護学研究科 看護学部看護学科 教授 齋藤まさ子氏				

	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひきこもり本人の歩むプロセスと支援」と題し、家族との関係に焦点を当てた3つの段階について説明していただいた。また、ひきこもり本人の言葉の紹介や、教授が実施している家族教室の紹介もあった。 <p>【アンケート記入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの提出は27人
結果・評価 (受講者の 意見感想含 む)	<p>評価方法・評価基準・目的達成度・受講者の満足度など</p> <p>○話題提供について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果より、全員が「大変参考になった(22人)」または「参考になった(5人)」と回答している。 ・長く地道な活動が大切、他職種との連携の大切さ、実態把握をしてからの活動の実践がすばらしい、取り組みや事例が参考になった、等の意見があった。 <p>○グループワークについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大変参考になった」16人、「参考になった」9人、記載なし2人 ・話題提供されたことを深めることができた、他市町村や他職種との情報交換ができた、職種が違う人との交流で対象者の見方を学んだ、等の意見があった。 <p>○斎藤先生の助言について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大変参考になった」25人、「参考になった」2人 ・時間が少なくて残念、という意見が多数。 ・本人の心理プロセスや対応方法、家族への対応方法などが具体的にわかりよかった、という意見も多数あった。
企画の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり支援は長期におよび、支援者側が疲弊することもしばしばある。今回の情報交換会で先駆的な取り組みを知れたことや、支援に関する悩みや思いを共有できたこと、斎藤教授からのわかりやすい助言を得られたことで、参加者は明日からの活動のヒント・元気をもらって帰ることができたと思われる。 ・話題提供で、PCの操作がうまくいかないこともあって時間がかかり、更に質問も多数出されたことで、終了時間が予定より超過した。斎藤教授が早足で助言をまとめてくださったが、もう少し時間がゆっくり取れるとよかった。 ・案内を「保健師・他職種情報交換会」としたことで、話題提供者として他職種(社会福祉協議会)に出ていただいたことで、他職種の参加のしやすさにつながったと考える。 ・ひきこもり支援は他職種との連携が欠かせないので、テーマと方法が合致しておりよかった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・会場は大研修室のほうがよい。 ・テーマにもよるが、他職種と合同の情報交換会ができるとうよい。 ・次年度から会費を徴収することになるため、それに見合った内容の情報交換会にする必要がある。
担当者	<p>保健師職能委員長 相馬 幸恵</p> <p>保健師職能委員 ◎齋藤 加奈 児玉 恵子 藤田 陽子 宮島 睦美 鈴木 那央 坂大 喜代子</p>

5 広報活動について

(1) ねらい

会員に職能活動を伝えるとともに、会員のネットワーク推進や会員増員の働きかけを行う。

(2) 内 容

- ①職能活動内容を新潟県看護協会だよりに掲載。
- ②保健師職能だよりを発行し、職能活動報告と研修復命を行った。

Ⅲ 平成 30 年度保健師職能活動計画（案）

1 活動目標

- (1) 地域包括ケアシステムの構築に向け、保健師一人ひとりが、それぞれの立場で取組を推進する。
- (2) どの職域に所属していても、保健師の専門性や役割を発揮した保健活動を行うことができる。
- (3) 保健師の連携強化とネットワーク構築を図り、いきいきと元気に活動する。

2 活動内容

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| (1) 保健師職能集会の開催 | 平成 30 年 6 月 20 日（水） |
| (2) 支部保健師職能代表者会議 | 平成 30 年 8 月 23 日（木） |
| (3) 保健師・他職種情報交換会 | 平成 30 年 9 月 29 日（土） |
| (4) 保健師情報交換会 | 平成 30 年 12 月中（土）予定 |
| (5) 保健師活動実践集の発行 | 平成 31 年 3 月 |
| (6) 広報活動 保健師職能だよりの発行 | 平成 31 年 3 月 |
| (7) 日本看護協会の実施する研修への会員派遣 | |

3 職能委員会の開催

- | | |
|----------|-------------------------|
| (1) 開催回数 | 10 回程度 |
| (2) 検討内容 | 活動企画検討、評価
会員増に向けた検討等 |

保健師職能だより

新潟県看護協会
保健師職能委員会
平成30年1月発行

平成29年度保健師職能集会報告

平成29年6月14日（水）、午後1時30分から新潟グランドホテルで保健師職能集会が行われ、昨年度よりも多い77名の参加がありました。

最初に、井上保健師職能委員長から、平成28年度の事業報告と平成29年度の活動計画について説明がありました。

次に、テレビのドキュメンタリー「THE 説得」でもおなじみの、(株)トキワ精神保健事務所の押川 剛様から、演題「閉ざされた心と向き合う～保健師の『説得力』『支援力』アップのために～」で講演をしていただきました。



現在の精神科医療で介入が難しい患者さんに対する対応について、実際の事例をもとに、説明をしていただきました。また、医療や支援を拒む方への対応では、誰かが“悪役”になる必要があるとの説明もありました。“悪役”の役割とは「今ある機関や支援者では対応できない部分を担う」ことです。また、“悪役”に必要なものは「超高度なコミュニケーション」であり、そのためにも徹底したヒアリング、視察、調査が必要であるとのお話がありました。

その他、「まずは本人を知ることが大切」「家族に頼っている現状があるけれども、介入が難しい患者さんの場合、家族が健全な精神状態ではないことも多いので、家族へのサポートも大切」「支援者は“つなぐ”と言うが、当事者や家族は“つなぎ”を理解していない。たらい回しに感じる」など、参加者が改めて考えさせられる内容がたくさんありました。

講師の押川様が、参加者が日頃感じている思いを代弁してくれたり、参加者へ叱咤激励をしながらケースや家族と向き合うことの大切さを熱く語られ、多くの参加者の共感を得ていました。実際、講演に関するアンケート結果では、95%の参加者が「大変良かった」「よかった」と回答していました。また自由記載では、「パワーをもらった」「講師のようにできないことも多いが、まず保健師として何ができるのか考えたい」など前向きな回答が多く見られました。

今後の保健師職能集会でも、できるだけ多くの皆様から参加してもらえよう、参加者の興味や関心の高いテーマを取り上げ、内容を企画していきたいと思えます。

平成29年度看護協会保健師会員加入状況

項目	保健所	市町村	地域包括	病院	診療所	訪問看護ステーション	老人保健施設	社会福祉施設	事業所	保健師学校養成所	その他	計
H29 会員数	94	469	14	164	4	7	2	3	1	23	40	821
H28 会員数	88	502	16	152	5	6	2	4	2	24	39	840
増減	+6	-33	-2	+12	-1	+1	±0	-1	-1	-1	+1	-19

(平成29年11月現在)

今年度から看護協会への入会等手続き方法の変更があったことも影響しているのか、昨年度より加入者数が減少した状況があります。今後も保健師の配置分野の拡大に伴い、活躍が期待されていることから、今以上に保健師間の連携を強化し、保健師の強みを活かした活動を展開していくことが重要であると考えています。皆さんの周囲にいる保健師に声をかけ、仲間を増やしていきましょう。



支部職能代表者会議報告

平成 29 年 8 月 17 日（木）に平成 29 年度支部職能代表者会議が行われ、県内 11 支部の保健師職能代表者と県保健師職能委員が一堂に会しました。各支部の平成 28 年度活動状況と平成 29 年度活動計画を報告いただく他、各所属での保健師の離職及び採用の現状等を情報交換しました。

会員の入会に関しては、今年度から看護協会への入会・継続手続きの方法が変更になりました。昨年同時期と比較すると、病院や訪問看護ステーションの加入者数は増加していますが、保健師全体の加入者数はやや減少しています。産休・育休を機に脱会してしまう、中堅期に協会役員を避けるために脱会してしまう、という現状が続いているようです。会議では、行政保健師向けの研修が多く、行政以外の保健師には魅力がないのではないかと、加入者数増加のために行政以外の保健師に対し研修等の積極的な発信が必要、という声もありました。

保健師の離職及び採用の現状に関しては、一定の定年退職者の存在や分散配置の影響を受け、採用が続いている支部が多いようでしたが、一方で、若手の離職に苦勞する支部もありました。今後は、新任期の定着に向けた体制作りや産休・育休後の復帰支援などについて、職能活動の展開を検討していけたらと思います。

今回の会議では職能委員連絡体制づくりを行いました。情報の共有化、情報発信の迅速化による今後ますますの活動の活性化が期待されます。

産業看護職・行政保健師合同研修会報告

平成 29 年 9 月 9 日（土）に新潟県看護協会保健師職能と新潟県産業看護部会が協同して実施している「産業看護職・行政保健師合同研修会」が行われ、保健師職能 22 名、産業看護部会 25 名、その他 1 名の計 48 名の参加者がありました。この研修会は、地域と行政が連携する必要性や重要性について学ぶことを目的に開催し、今年度で 5 回目になります。今年度は、メンタルヘルス～自殺・うつ病対策に焦点を当て、研修会を実施しました。

話題提供として、新潟障害者職業センター障害者職業カウンセラー 内田典子さんより「リワークにつないだケースの紹介～リワークの紹介、利用者の傾向、支援の流れについて」、新潟市江南区健康福祉課健康増進係 坂内理恵子さんより「自殺予防事業への取り組みについて」お話しいただきました。新潟障害者職業センターで行っているリワーク支援の取組は、初めて聞く参加者も多くとても参考になりました。職域、行政のそれぞれの取組についてお話を聞く機会があまりなかったので貴重な機会となりました。

そして、恵生会南浜病院 後藤雅博院長より「最近のうつ傾向の特徴とハイリスク者への支援」をテーマに、ストレス過剰によって引き起こされる様々な症状、疾患について、わかりやすく講義をしていただきました。いわゆる「新型うつ」はないことや、発達障害の問題、自殺の予兆と対応まで学ぶことができ、もっとじっくり聞きたくなる充実した内容でした。

グループワークでは、ハイリスク者支援等で日頃感じていることや困っていること、職域と行政の連携を進めるための取組などについて話し合いました。業務としてだけでなく、職場内の問題としても関心が高かったようで、どのグループも活発に意見が出され、それぞれの立場での困りごとや、連携への思いを共有できました。

「働き方改革」、「健康経営」など、今までになく「健康」に関心が高まっている中、お互いに連携して取り組んでいこうと、思いを新たにできた有意義な研修会でした。



保健師・他職種情報交換会報告

平成 29 年 11 月 11 日（土）に，新潟県看護協会において，「ひきこもり支援について」をテーマに情報交換会を開催しました。ひきこもり支援に関わる他機関・他職種にも声をかけ，保健師の他にも社会福祉協議会や訪問看護ステーション，医療機関などから，行事等とも重ったにも関わらず県内各地から 25 名の参加がありました。

先駆的に取り組んでいる新発田市・新発田市社会福祉協議会・佐渡市から話題提供をしていただきました。



写真右から，新発田市 塚野さん，
新発田市社協 田村さん，佐渡市 田村さん



助言者：新潟青陵大学大学院看護学研究科
齋藤 まさ子 教授

話題提供の 3 人からは，長期間に及ぶ丁寧な支援を続け見えてきた本人の変化，若者サポートステーションとの協働から始まった様々な取り組み，実態調査からわかった子ども時代からの背景，他機関とのつながりの大切さ，などについてお話をいただきました。



盛り上がったグループワーク

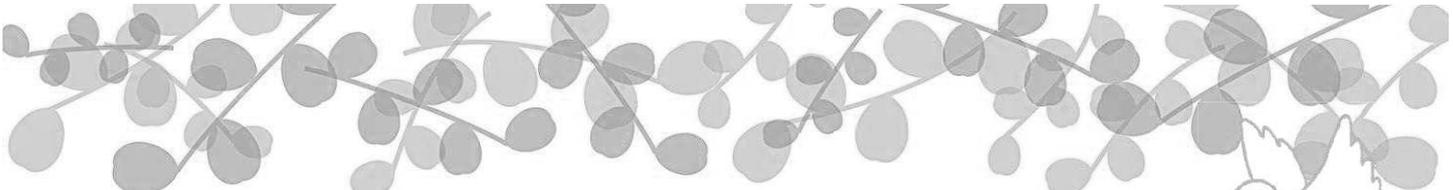
他市町村の保健師や他職種との意見交換では，「話題提供の内容を更に深めることができた」「同じ悩みを共有できた」「他市町村の取組が聞けて参考になった」等の意見が出された他，ひきこもり支援は様々な立場や関係者によって支援されていることを再認識しました。

最後に，齋藤教授の助言として，「ひきこもり本人の歩むプロセスと支援」と題し，家族との関係に焦点を当てた 3 つの段階について説明していただきました。「本人の心理プロセスや対応方法，家族への対応方法などが具体的にわかってよかった」という感想がたくさん寄せられました。

ひきこもりの支援は長期にわたり，支援者側が疲弊することも珍しくありません。今回の情報交換会に参加されたみなさんが，活動のヒントと元気をもらって帰られたように思います。



沢山の質疑が出されました



「地域包括ケアシステム構築・推進のための保健師に必要な能力の強化」研修受講報告
長岡市福祉保健部福祉課障害者基幹相談支援センター 主査 齋藤加奈さん

平成 29 年 9 月 21 日～22 日に、日本看護協会神戸研修センターで開催された「地域包括ケアシステム構築・推進のための保健師に必要な能力の強化」を受講させていただきました。

初日は 9 時 30 分から開始するため、張り切って前日から神戸に乗り込み、研修当日を迎えました。

～「地域包括ケアシステム」とはそもそも何??～

皆さんは、「地域包括ケアシステムの構築」という言葉から、高齢者支援を想像しませんか？私は現在障害福祉の分野に所属していますが、「地域包括ケアシステム」という言葉を聞く機会はそれほど多くないですし、高齢者分野が一番「地域包括ケアシステムの構築」に向けた動きが先行していると感じていたため、どうしても自分の業務に身近と感じることができませんでした。

けれどもこの研修で、「地域包括ケアシステム」とは、「病気ではない高齢者も、病を抱える住民も、障害とともに生きる障害者も、認知症も、精神障害も、難病も、医療依存度の高い子どもも、みんな、地域で当たり前暮らしたい。

そのために、**地域**で**包括的に****ケア**できる**システム**=地域包括ケアシステム!!

と説明があり、「担当業務が何であれ、目指すところはみな同じ!!」と考えるようになりました。また、様々な分野で話題となっている「地域共生社会の実現に向けた取り組みの推進（社会福祉法、介護保険法、障害者総合支援法、児童福祉法）」にもつながっていると感じました。

～「地域包括ケアシステム」で保健師に求められている役割は??～

保健師は、「制度や福祉、難病等に精通しているため、地域包括ケアを担うキーパーソン」や「地域全体のコーディネーター」としての役割求められていると説明がありました。また、「先々を見据えて、今手を打つことができるのは保健師」「保健師の強みは地域を見ていること…」など、保健師の強みについても改めてお話がありました。

現在保健師が分散配置になり、事業に追われることも多いですが、「事業をこなすことが重要ではない。市としての目的があるからこそ、それぞれの部門の事業があることを忘れてはダメ」「何のために➡どうやって➡何を…のベクトルで発信していくことが大切」などのアドバイスもありました。

この研修は事前、事後課題があり大変な部分もありましたが、自分の役割や関係機関との連携について、改めて振り返り、整理ができる、とても有意義な研修でした。

✿新潟県看護協会保健師職能では、日本看護協会の実施する研修への会員派遣を行っています✿

平成 30 年度

助産師職能集会

平成 30 年 6 月 20 日

新潟県看護協会助産師職能委員会

目 次

平成 30 年度	助産師職能集会プログラム	1
平成 29 年度	新潟県看護協会助産師職能委員会活動報告	2
I	職能委員会及びその他の会議研修会開催報告	3
II	活動報告	
1.	助産師職能集会	4
2.	支部代表者会議	5
3.	助産師職能情報交換会	6
4.	施設・開業助産師連携研修会	7
5.	支部助産師職能活動報告	8
6.	支部助産師職能活動支援について	19
III	平成 30 年度助産師職能活動計画（案）	20

平成 30 年度 助産師職能集会プログラム

メインテーマ「未来につなぐ助産ケア」

<ねらい>

特定妊婦、児童虐待、DV、メンタルヘルスの不調等々、女性を取り巻く問題が年々増加しています。「すべての女性に助産師のケアを」を合言葉に、多くの女性と子どもに助産師のケアが届くことを願っています。それには、その人の背景を理解し迅速かつ丁寧な判断と対応ができる助産師の力量が求められます。今回の講演は女性のライフサポーターとしての助産師のスキルアップの一助となると考えます。

<日 時> 平成 30 年 6 月 20 日 (水) 13 : 30 ~ 16 : 00

<会 場> 新潟グランドホテル 5 階 波光の間

<日程・内容>

13 : 00 受付

13 : 30 開会

あいさつ

平成 29 年度事業報告

助産師職能委員長 小田容子

平成 30 年度活動計画と支部活動支援

助産師職能委員 小林正子

新旧役員紹介

13 : 45 講演

テーマ「産後の女性のメンタルヘルスケア ～バースレビューを中心に～」

講 師 群馬大学 医学部 保健学科 教授 常盤 洋子 先生

* 講師紹介

2002 年 筑波大学 人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学にて博士 (ヒューマン・ケア科学) を取得

母親意識の発達に関する研究、出産体験の意味づけに関する研究、生涯学習の視座からとらえた助産師基礎教育と臨床の協働型継続教育プログラムの開発に関する研究をされています。また、母性看護外来(看護専門外来)で妊娠・出産にかかわる悩みや不安に関する看護相談をされています。

15 : 45 質疑応答

16 : 00 閉会

参加費 会員 : 無料 非会員 : 1,000 円

平成 29 年度助産師職能委員会活動報告

助産師職能委員長 小田 容子

活動目標

1. 助産師の連携強化を図り、出産の場や助産師の育成・養成に関する課題についての意見集約をし、解決に向けての活動をする。
2. 助産師が専門性を発揮し、安全・安心で満足度の高い妊娠・出産・育児支援をできるよう支援する。

活動内容

- | | | |
|--|---------------------|----------------|
| 1. 助産師職能集会 | 平成 29 年 6 月 14 日 | 参加者 43 人 |
| 2. 支部助産師代表者会 | 平成 29 年 8 月 17 日 | 参加者 19 人 |
| 3. ママ&ベビーフェスタ
新潟市助産師会と共同参加「助産師なんでも相談」 | 平成 29 年 9 月 15/16 日 | 職能委員 8 人 |
| 4. 助産師職能情報交換会 | 平成 29 年 10 月 23 日 | 参加者 28 人 |
| 5. 新潟県母性衛生学会発表 | 平成 29 年 11 月 18 日 | 職能委員 3 人 |
| 6. ブロック会議 | | |
| ・ 柏崎、魚沼、十日町、上越 | 平成 29 年 10 月 12 日 | 支部 4 人 県担当 2 人 |
| ・ 佐渡、新潟西、新潟東 | 平成 29 年 10 月 20 日 | 支部 4 人 県担当 2 人 |
| | 平成 30 年 02 月 08 日 | 支部 3 人 県担当 2 人 |
| ・ 村上、新発田 | 平成 29 年 10 月 25 日 | 支部 3 人 県担当 2 人 |
| ・ 県央、長岡 | 平成 29 年 11 月 22 日 | 支部 3 人 県担当 2 人 |
| 7. 施設・開業助産師連携研修会 | 平成 30 年 03 月 03 日 | 参加者 40 人 |

活動評価

支部代表者会では一昨年度より、他施設や開業助産師との交流、地域連携の充実を図る、助産師のための研修会開催などの課題があげられ、29年度は課題解決のための活動を中心に行ってきた。助産師の職能をアピールするため他団体と協働する活動にも参加した。子育て中のお母さんたちの「生の声」が聞かれ有意義であったと思う。また、近隣支部を集約したブロック会議も開催され「顔の見える関係」の基礎も出来てきたように感じている。ブロックの活動は研修会開催のみでなく「いいお産の日」活動として地域に出ていくことも交流・連携を深めるためには効果的である。繁忙を極める業務に携わりながらの活動は容易ではないが、職能の力を高めるために一人一人に努力をして頂きたい。

近年、周産期のメンタルヘルスの不調や特定妊婦の増加は日々の業務の中で身をもって感じる場所である。職能集会では「産後うつ」に関して学び、情報交換会ではその対応として面接技術を学んだ。参加者の評価は双方とも高いものであったが参加者が少ないことが非常に残念なところである。

アドバンス助産師に関しては全国で約 1/3 の助産師が認定を受けている現状であり新潟県でも同じような傾向にある。認知されていないと悩むよりその価値を自分たち自身で創っていくことが肝要であると思う。県職能委員会の課題の一つと位置付け支部代表者とも連携し支援していきたいと思う。

職能委員

小林 正子 田中 智子 永重 英子 樋口 浩美 吉原 直美 渡辺 苑香
渡辺紀子

I. 職能委員会及びその他の会議・研修会開催報告

委員会開催回数 10回 その他会議・研修・活動

	日時	検討内容	会議・研修・活動等
第1回	平成29年 6月17日	(1) 平成29年度の活動計画 (2) 研修会企画(情報交換会・連携研修会・集会) (3) 支部代表者会議の準備	平成29年 6月7日 日看協通常総会 6月8日 日看協全国助産師 交流集会
第2回	7月13日	(1) 支部代表者会議の準備、ブロック会議について (2) 研修会企画(情報交換会・連携研修会・集会) (3) ママ&ベビーフエスタの取り組みについて	6月14日 県看協職能集会 6月17日 県看協合同委員会
第3回	8月17日	(1) 支部代表者会議の準備/運営 (2) ママ&ベビーフエスタの取り組みについて (3) 助産師職能情報交換会の企画・準備	7月19日 ママ&ベビーフエスタ打 ち合わせ会議 7月24日 日看協助産師出向事業 推進会議
第4回	9月27日	(1) 支部代表者会議の振り返り (2) ブロック会議の開催について (3) ママ&ベビーフエスタの振り返り (4) 情報交換会の準備、連携研修会の企画	8月03日 全国職能委員長会 8月17日 県支部代表者会議 9月15・16日 ママ&ベビーフエスタ
第5回	10月23日	(1) 助産師職能情報交換会の準備/運営 (2) 調査研究の企画、準備 (3) 平成年度助産師職能集会の企画・検討 (4) 平成30年度の活動計画、予算案について	10月12日 ブロック会議 (柏崎・魚沼・十日町・上越) 10月20日 ブロック会議 (佐渡・新潟西・新潟東)
第6回	12月14日	(1) 助産師職能情報交換会の振り返り (2) ブロック会議結果報告、今後の動きについて (3) 災害時の母子支援に関する調査研究の企画 (4) 平成30年度助産師職能集会の検討	10月23日 職能情報交換会 10月24日 地区別職能委員長会 10月25日 ブロック会議 (村上・新発田)
第7回	平成30年 2月1日	(1) 災害時の母子支援に関する調査研究について (2) 施設・開業助産師連携研修会の準備 (3) 平成30年度助産師職能集会の企画・冊子準備	10月26日 配偶者暴力防止 実務担当者会議 11月18日 県母性衛生学会 調査研究発表
第8回	3月3日	(1) 施設・開業助産師連携研修会の準備/運営 (2) 平成30年度助産師職能集会の企画・冊子準備	11月22日 ブロック会議 (県央・長岡)
第9回	4月12日	(1) 施設・開業助産師連携研修会の振り返り (2) 平成30年度総会・助産師職能集会準備/運営	平成30年
第10回	5月16日	(1) 平成30年度総会・助産師職能集会準備/運営	2月8日 ブロック会議 (佐渡・新潟西・新潟東) 2月9日 配偶者DV予防会議 3月2日 全国職能委員長会議 3月3日 施設・開業助産師連携 研修会 6月20日 通常総会/職能集会

II 活動報告

1 助産師職能集会

テーマ	「未来につなぐ助産ケア」 周産期のメンタルヘルスケア ～ すべてのお母さんと子どもの幸せのために ～				
領域	助産師職能研修	会場	新潟グランド ホテル	受講料	会員 なし 非会員 なし
対象	助産師 参加数(43 人)				
日時	平成 29 年 6 月 14 日 (水曜日) 13 : 30～16 : 00				
ねらい (目標)	年々増加傾向にある特定妊婦、児童虐待、メンタルヘルスの不調をうかがわせる母たちへの対応と幼い子どもたちのライフサポーターとして、その背景を理解し、迅速かつ丁寧な対応と判断ができる助産師の力量形成の一助とする。				
講師	新井 陽子 氏 北里大学看護学部 生涯発達看護学准教授				
内容・方法	1、平成 28 年度事業報告および平成 29 年度活動計画 2、調査報告「新潟県の分娩施設における特定妊婦の支援状況」 3、講演「周産期のメンタルヘルスケア～すべてのお母さんと子どもの幸せのために～」				
結果・評価 (受講者の 意見感想含む)	講演では、妊娠から産後のメンタルヘルス支援の新たな取り組み、周産期うつ病のリスク因子を学んだ。新たに始まる産後健診の概要や周産期うつ病の症状が理解でき、EPDS の解釈 (点数ばかりにこだわるべきではないという事) を学ぶことができた。予防的介入として、両親学級を通じた情報提供 (子育てに関する不安の解消方法、夫婦間の相互理解の重要性) や地域連携が大切であることを学んだ。治療的介入には、心理的療法、精神療法、薬物療法があることが理解できた。母親の不安を取り除く支援は、助産師の腕の見せ所であり、大切な役割であることを改めて感じることができた。アンケートの結果より、70%の参加者がテーマに興味をもって参加しており 90%の参加者が講演会の内容について、「参考になった」と回答。講演内容に対する満足度の高さがうかがえ、目標は達成できたと考えられた。				
企画の評価	アンケート結果より「ポイントがわかりやすく、とても参考になった」「EPDS の点数だけで重症度を考えていたが、自分の考え方を改めることができそうだ」「具体的で、すぐに実践できる内容だった」などの意見が多かった。参加者にとって、非常に有意義な研修内容であったと思われる。 資料や会場準備も滞りなく行われ、当日の運営もスムーズに行えた。				
課題	アドバンス助産師の認定に関する事、周産期の災害支援について、産後うつに対しての介入や「エジンバラ産後うつ質問票」の活用についてなど、会員の望む研修テーマも明らかになった。職能委員会の今後の課題として取り組んでいきたい。				
担当者	助産師職能委員長 小田容子 委員 ◎吉原直美 田中智子 樋口浩美 小林正子 佐野真由美 田中直美 渡邊紀子				

2 支部職能代表者会議

テーマ	未来につなげる助産ケア ～ 助産力を発揮するために ～				
領域	助産師職能会議	会場	研修センター 大会議室	受講料	会員 なし 非会員 なし
対象	学習段階レベル () 募集数()人応募数()人参加数(19 人)会員数(19 人)非会員数(0 人)				
日時	平成 29 年 8 月 17 日 (木曜日) 13 : 45 ～ 16 : 00				
ねらい (目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・各支部の活動方針、活動内容、課題についての情報交換を行い課題解決に努める ・助産力を発揮するための地域連携(ブロック活動)を推進する。 				
講師	なし				
内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1、平成 29 年度助産師職能委員紹介および各支部職能代表者紹介 2、助産師職能委員長挨拶・全国職能委員長会議報告 3、平成 29 年度各支部活動方針と、ブロックを編成し活動することの県からの提案 5、グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・各支部職能活動の現状とブロック活動の賛否及び県職能に望むこと ・アドバンス助産師の現状と課題 				
結果・評価 (受講者の意見 感想含む)	<p><評価> グループワークはブロック別とし、担当する県職能委員が入り意見の集約を行った。分娩施設の減少に伴い活動が制限されている支部も多く、他施設との交流や開業助産師との連携も視野に入れた活動をブロック別に行うことに全員の賛同を得ることができた。各ブロックとも年内に 1 回目の会議を開くこととなった。CLOCMiP については施設によって温度差があり、アドバンス助産師の認定を受けても活躍の場がない現状も見えた。ブロックで行う活動の一つとして来年度からは CLOCMiP を見据えた研修内容を盛り込むことも検討された。各ブロック会議の日程も計画され、活発で建設的な話し合いの場となった。</p>				
企画の評価	<p>運営はスムーズに行われ、各支部間の情報交換の目的は達成され、それぞれの課題も明らかになった。グループワークは、ブロック別に分けたこと、ブロック担当の職能委員が入ったことでより身近な問題として地域連携を考えることができた。県職能への要望も具体的に聞くことができた。助産師に特化した活動、研修を望む声もあり、県職能の活動として取り上げるべき課題も見付けることができた。タイムリーな企画であり、ねらいは達成されたものと評価する。</p>				
課題	<p>来年度の研修を見据えて、各ブロックとも年内に 1 回目の会合を開くこととなった。来年度、職能代表者が変わる支部も多く、また職能委員も交代するため、ブロック活動が継続できるようブロック活動の意義を伝え、今後の活動のためのフローチャートの作成や助産師の職能活動の活発化をねらったこの取り組みが継続できる準備が必要である。</p>				
担当者	<p>助産師職能委員長 小田容子 ◎田中智子、小林正子、樋口浩美、吉原直美、渡邊紀子、長重英子、渡邊苑香</p>				

3 助産師職能情報交換会

テーマ	妊産婦に対する援助的コミュニケーション～聴くことは伝えること				
領域	助産師職能研修	会場	研修センター3 階大研修室	受講料	会員 なし 非会員 なし
対象	助産師 参加数 28人				
日時	平成 29年 10月 23日 (月曜日) 10:00～15:00				
ねらい	専門職として必要なコミュニケーションの基本、対象のニーズや問題をとらえるコミュニケーション、対象の反応をより深く理解したコミュニケーションを理論と演習を通して学ぶ。				
講師	新潟大学医学部保健学科准教 渡邊岸子 氏				
結果・評価(受講者の意見、感想を含む)	<p>評価のため事後アンケートを実施 アンケート配布 28名 回収 28名 (回収率 100%) 講演について 参考になった (28名) 参考にならなかった (0) であった。</p> <p>セラピストとしての条件や技法というカウンセリング技術の専門的な講義であったが、具体的な事例を取り上げながらの講義であったため、わかりやすかったという意見が多かった。午前中、カウンセリングの技法の基本を学び、午後からはグループに分かれて、対象者役と助産師役に分かれてロールプレイを体験することができた。実際の現場で体験したことのある事例を想像しながら、コミュニケーションを展開することで、「学んだ技法を意識しながら相手とコミュニケーションを展開することができた。」「自分の気がつかなかった話し方の傾向を知ることができた。」「この体験を、実際の妊産婦の保健指導場面の実際に活かしたい。」という意見が多く聞かれ、参加者の満足度は高かった。</p>				
企画の評価	<p>助産師は、対象への保健指導を日々行っている。対象のニーズをとらえてコミュニケーションをとることは、一見、何の問題もなく展開されているものと思いがちである。しかし、改めて、コミュニケーションの基本、対象のニーズや問題を捉えてのコミュニケーション、対象の反応をより深く理解したコミュニケーションの理論を学ぶことで、日頃行っている自己のコミュニケーションを振り返るよい機会となったと考えられる。ロールプレイを取り入れた演習を通して、知識だけではなく「技法の活用」を意識してコミュニケーションをとることを体験できた。「実際の現場で直接活かすことができそうである。」という反応も多かった。助産師に必要なコミュニケーションスキルを向上させることにつながる有意義な研修であったといえる。</p>				
次年度に向けての検討課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義だけではなく演習も取り入れることでの満足も高かった。 ・今回、クリニカルラダーレベルⅢ認定証申請に必要な研修の承認申請を行った。審査結果は「該当せず」であったが受講者に修了書を研修の足跡として発行した。今後の研修に関しても「受講修了証」の発行を継続していきたい。 				
担当者	<p>助産師職能委員長 小田容子</p> <p>職能委員 ◎永重英子 小林正子 田中智子 樋口浩美 吉原直美 渡邊紀子 渡邊苑香</p>				

4 施設・開業助産師連携研修会

テーマ	「災害時の母子支援対策の取り組みについて」～それぞれの立場から～				
領域	助産師職能研修	会場	新潟県看護研修センター 大研修室	受講料	会員 なし 非会員 なし
対象	助産師 参加数(40人) 会員 28人 非会員 12人				
日時	平成30年3月3日(土曜日) 13:00～15:30				
ねらい (目標)	災害時の母子支援対策の現状を知り、共通認識を持って連携・協働できるようになる グループワーク等、交流により連携をとれるような「顔の見える関係」の構築				
話題提供者	<ul style="list-style-type: none"> ・樋口浩美氏 新潟県看護協会助産師職能委員 ・五十嵐涼子氏 長岡市教育委員会 子ども未来部子ども家庭課 係長 ・酒井由美子氏 新潟県助産師会 長岡地区理事 ・小森雅子氏 長岡赤十字病院 5B病棟師長 ・高橋直子氏 十日町病院 主任助産師 ・森山幸枝氏 新潟大学医歯学総合病院 助産師 IBCLC 				
内容・方法	<p>話題提供</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、新潟県周産期リエゾンについて 2、行政の立場から 3、開業助産師の立場から 4、施設助産師の立場から 5、災害体験者の立場から 6、災害時の母乳育児支援 				
結果・評価 (受講者の意見感想含む)	<p>評価のためのアンケートを実施(回収率97.5%)</p> <p>上記話題提供1～6の項目に対し、参考になった、まあ参考になったとの回答%が1～5とも100% 6のみ97.5%と高い評価を得た。興味深いテーマであり、色々な立場の人の話が聞けて良かった、自助のための教育や連携の大切さを学ぶことができたなどの意見が多かった。これらの回答により、講演内容に対する満足度の高さがうかがえる。</p>				
企画の評価	<p>目的・目標の妥当性：それぞれの立場を再認識することができて、テーマ設定は適切であった。</p> <p>講師・内容の妥当性：多くの話題提供があり、より理解を深めることができた。</p>				
課題	話題提供者が多かった分、時間が押してしまい、グループワークの時間が短くなってしまった。時間配分をスムーズに行うことが課題である。				
担当者	<p>助産師職能委員長 小田容子</p> <p>委員 ◎吉原直美 田中智子 樋口浩美 小林正子 永重英子 渡邊苑香 渡邊紀子</p>				

5 平成29年度 支部助産師職能活動報告

【村上 支部】

代表氏名： 鈴木 史 委員数： 1 名 会員数： 7 名

会員の所属施設名：

厚生連村上総合病院

<活動報告>

研修会： 三職能合同研修会「平穩死を受け入れるレッスン」

講 師： 石飛 幸三氏

日 時： 平成 29 年 12 月 3 日

会 場： 村上市民ふれあいセンター 多目的ホール

参加者： 当該支部 54 名（非会員 10 名） 他支部 0 名 一般職等 19 名

その他活動内容

- ・なし

<助産師活動の問題点及び課題>

- ・混合病棟で看護師業務をしている。
- ・地域で当院しか助産師がいないため、助産に特化した活動が行えない。
また、予算配分も少ないため、活動に広がりをもてない。

<県助産師職能委員への要望>

- ・研修会の情報交換を続けてほしい。

【新発田 支部】

代表氏名：小林久美子 委員数：2名 会員数：40名

会員の所属施設名：

県立新発田病院 あがの市民病院 富田産婦人科クリニック

<活動報告>

研修会：自分のためのハンドクリーム作り（ハンドマッサージ含む）

講 師：アロマアドバイザー 高野真由美先生

日 時：平成29年9月30日

場 所：あがの市民病院

参加者：当該支部 11名 他支部 1名

その他活動内容

- ・新発田支部助産師職能会議 4回
- ・助産師職能 村上・新発田支部ブロック会議 1回（10月25日）

<助産師活動の問題点及び課題

- ・各施設での助産師数が少ないため参加者が少ない。予算も限られている。
- ・研修会を行うことが目的になってしまっている感じがある。
- ・日頃の業務に忙殺されてしまう。

<県助産師職能委員への要望>

- ・なし

【新潟東 支部】

代表氏名：阿部 麻由美

委員数：2名

会員数：147名

会員の所属施設名：

新潟大学医師学総合病院 新潟県立がんセンター新潟病院 竹山病院 万代病院 新潟市民病院
新潟医療生活協同組合木戸病院 新潟南病院 厚生連豊栄病院 医療法人愛仁会亀田第一病院
荒川・大桃エンゼルマザークリニック 新津産婦人科クリニック 新潟医師会メジカルセンター
医療法人とくなが女性クリニック ロイヤルハートクリニック 新潟青陵大学 新潟医療福祉大学
新潟大学医学部保健学科看護学専攻 本多レディースクリニック のぶ皮膚科

<活動報告>

研修会：新潟東西支部合同研修

発達に遅れのある子ども・家族への支援の実際を学ぶ

こどもたちが変わった ～ひと そして 成長・発達とは～ についての講義

講師：医療法人社団 こども輝き 発達クリニック ばすてる

院長 東條 恵 先生

日時：平成29年11月18日（土曜日） 10：00 ～ 12：00

場所：新潟テルサ

参加者：当該支部48名 他支部 不明 名

その他活動内容

・なし

<助産師活動の問題点及び課題>

- ・研修会は東西合同で企画・運営するので交流の良い機会になっている。
- ・開催日時はいつも土曜の午前だが、他の曜日・時間を検討しても良いかと思う

<県助産師職能委員への要望>

・なし

【新潟西 支部】

代表氏名：廣瀬 希 委員数： 2名 会員数： 59名

会員の所属施設名：こばり園 厚生連新潟医療センター

済生会新潟第二病院 下越病院 新潟白根総合病院 新潟脳外科病院

新潟看護医療専門学校 白根大通病院

<活動報告>

研修会：(テーマ) 愛着不育の時代の中で私たちはどんな子育てを目指すべきだろうか？

(内容) 発達に遅れのある子ども・家族への支援の実際

—ひと そして 成長・発達とは— についての講義

講師：東條 恵先生 (発達クリニックぱすてる院長)

日時：平成 29年 11月 18日

場所：新潟テルサ 研修室1

参加者：当該支部 48名 (新潟東支部と合同) 他支部 0名

その他活動内

- ・職能研修会の企画と運営

<助産師活動の問題点及び課題>

- ・支部内に協会のいる分娩取扱い施設が1施設しかなく、その他の施設では助産師の会員数が1施設当たり1～数名のため情報共有や支部役員選出等の支部の運営も困難になってきている。
- ・協会の助産師職能研修会への参加意欲が例年低く、参加人数の確保が困難なため、内容や日時、対象範囲の拡大、アナウンス方法等の検討が必要。

<県助産師職能委員への要望>

- ・ブロック活動での助産に特化した研修会の企画を提案していただきましたが、支部の職能研修会の方針との相違がでてきました。(平成30年度は3職能合同研修になる予定です。)

平成30年度分は、現在の進んでいる計画に沿って、新潟東・佐渡と合同の助産師職能研修会も開催する予算は組めるとのことですが、再来年度以降に関しては、随時相談させていただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

【佐渡 支部】

代表氏名：羽二生 静香 委員数：2名 会員数：2名

会員の所属施設名：佐渡総合病院 佐渡市役所

＜活動報告＞

研修会：ホワイトボードミーティング ケース会議をやってみよう（3 職能合同で実施）

講師：奥西 春美

日時：平成 29 年 9 月 9 日

会場：佐渡看護専門学校 コミュニティホール

参加者：当該支部 36 名 他支部 0 名

その他活動内容

・なし

＜助産師活動の問題点及び課題＞

会員数が少なくほとんどが 1 施設に勤務しており研修会開催が難しい。

来年度は新潟地区と合同で研修会を計画

＜県助産師職能委員への要望＞

・なし

【県央 支部】

代表氏名： 鶴若孝子 委員数： 2名 会員数： 31名

会員の所属施設名：

済生会三条病院 厚生連三条総合病院 レディースクリニック石黒 県立吉田病院

<活動報告>

会議：研修準備など 合計5回

研修会： 「子宮内膜症・腺筋症とホルモン療法の最近の話題」

研修受講しその後食事しながら交流会

講師：上田昌博先生（うえだクリニック院長）

日時：平成29年11月17日（受付18：30、研修19：00～21：00）

場所：ビストロ&カフェ六朝館

新潟県燕市井土巻2丁目2番地

参加者：当該支部員のみ協会員9名（施設助産師9人）

非協会員7名（開業助産師4名 クリニック助産師1名看護師2名） 計16名

参加者アンケート：全員「期待どおりであり、今後の活動に役立てられそう」という結果

参加者の意見は「年1回近隣助産師と集まれ楽しみ。最近のホルモン療法について学習したかった。女性の一生をサポートするスタッフになりたいから。近年増加している腺筋症のトピックスを学習したかったから」などという意見があった。

その他の活動内容

- ・なし

<助産師活動の問題点及び課題>

- ・県央地区の協会員が減ったことで、支部活動、委員の選出が困難になっていること
- ・個人クリニックのスタッフや開業助産師と交流する場も少なく、お互いの情報交換ができない
- ・混合病棟に所属する施設助産師の悩み（急性期に関わりながらの妊産婦との関わり）
- ・助産師であるが産科廃止に伴い妊産婦新生児と関わる機会がなくなっているなかでの活動
- ・アドバンス助産師習得のための環境整備の必要性

<県助産師職能委員への要望>

- ・アドバンス助産師取得研修を各ブロックで内容が重複しないように調整してほしい
- ・県央地区の交流会を楽しみにしてくれている助産師がいることも意見としてあるため、交流会や話し合いの場の提供は今後も必要に感じた

【長岡 支部】

代表氏名：安達 栄

委員数： 4名

会員数： 97 名

会員の所属施設名：長岡日赤病院 立川総合病院 小千谷総合病院 長岡中央総合病院

<活動報告>

研修会： 子宮収縮薬の使用と管理

講 師：長岡中央総合病院 産婦人科部長 加勢宏明

日 時：平成29年11月11日 13:30～15:30

場 所：小千谷総合病院 講堂

参加者： 当該支部26名 他支部7名（レディスクリニック石黒、茅原クリニック、柏崎総合医療センター）

その他活動内容

- ・「すこやかともしびまつり2017」への協力
- ・広報誌「三尺玉」への協力

<助産師活動の問題点及び課題>

- ・若い助産師の偏在

若いスタッフの多い施設では、分娩件数の増加に伴い、ケアの向上が課題。

50代の多いスタッフの施設では、10年後が心配。

- ・新人の育成に時間を要する。

混合病棟では、産科以外にも習得しなければならない知識や技術があり、さらに大変。

<県助産師職能委員への要望>

- ・合同研修の開催の際には、よきアドバイザーになってほしい。

・県内の助産師が交流できたり、助産関係の最新の情報がスタッフにも伝達されたりする場があると良いのではないかな。

【柏崎 支部】

代表氏名：小川 遥 委員数： 1名 会員数： 15名

会員の所属施設名：

柏崎総合医療センター

<活動報告>

研修会： 3 職能合同研修会 「看護職のための口腔ケア」

講 師：前川歯科医院 前川雄哉 先生

日 時：平成 29 年 11 月 29 日

場 所：柏崎医療センター

参加者：当該支部（56名）※3 職能合同の人数

その他活動内容：

- ・小学生看護体験 7月29日(土)
- ・小学生お仕事 8月20日(日)

<助産師活動の問題点及び課題>

・会員が1施設のみの為、マンパワーの不足がある。次年度は、県の助産師職能支部のブロックで研修会を企画しており、うまく連携ができるよう活動したい。

<県助産師職能委員への要望>

- ・なし

【十日町 支部】

代表氏名：八重沢美都子 委員数： 1名 会員数： 26名
会員の所属施設名：県立十日町病院 たかき医院 津南病院 中条第二病院
財団法人上村病

＜活動報告＞

研修会： 「抗うつ薬は自殺を減らすのか～「死にたい」と打ち明けられたら～」

講 師： 中条第二病院 副院長 渡邊純蔵先生

日 時： 平成 29年 11月 11日

場 所： 十日町地場産業センター クロステン レセプションホール

参加者：当該支部 63名（助産師参加4名のみ） 他支部 0名

その他活動内容

・なし

＜助産師活動の問題点及び課題＞

・今回は三職能合同研修会を行い、参加者は63名であったが、そのうち助産師の参加は4名であった。例年同様助産師単独での研修会は困難であり、三職能で行っても助産師の参加人数は増加しないのが現状である。30年度はブロック別での研修会を行う予定だが、助産師に特化した研修が行えるのはいい事だが、初めてのことであり計画、運営に不安を感じます。

＜県助産師職能委員への要望＞

・なし

【うおぬま 支部】

代表氏名： 星 麻由美 委員数： 2 名 会員数： 17 名

会員の所属施設名：

北里大学保健衛生専門学院 魚沼市立小出病院 魚沼基幹病院

<活動報告>

研修会： 骨盤ケア

講 師： 開業助産師マタニティサポートまめ家 竹藤 由美子

日 時： 平成 29 年 10 月 28 日（土）13:30～15:00

場 所： 魚沼基幹病院 講堂

参加者： 当該支部 19 名（非会員 6 名） 他支部 不明 名

その他活動内容

- ・なし

<助産師活動の問題点及び課題>

- ・うおぬま支部の助産師は、魚沼基幹病院で働く助産師が多くをしめているが、開業助産師もいて、特に若い世代の助産師は普段地域で活動している助産師と意見交換をする時間をもてない。研修会は地域での活動など知る機会やコミュニケーションの場になった。
- ・対象のレベルに差があるため骨盤ケアのシリーズ化し各助産師が実践に活かせるような取り組みが必要である
- ・アンケートの結果、退院後の支援や地域での助産師の活動など、地域でのサポート体制に興味がある助産師が多くいたため、次年度の研修に組み込んでいきたいと思う

<県助産師職能委員への要望>

- ・他の地区の活動を年間スケジュールにしてあるのは分かりやすく、継続してほしい。

【上越 支部】

代表氏名： 近藤 景子 委員数： 3名 会員数： 78名

会員の所属施設名：

県立中央病院 県立柿崎病院 県立妙高病院

厚生連上越総合病院 厚生連糸魚川総合病院 厚生連けいなん病院 新潟労災病院

上越看護専門学校

<活動報告>

研修会： GDM 妊婦への関わりについて

講 師：上原喜美子先生（新潟青陵大学准教授）

日 時：平成 29 年 11 月 4 日

場 所：上越市市民プラザ 第4会議室

参加者：当該支部 8 名 他支部 なし

その他活動内容

- ・特になし

<助産師活動の問題点及び課題>

- ・委員は県立中央病院、厚生連上越総合病院、厚生連糸魚川総合病院より 1 名ずつ選出されており、研修会も委員が所属する 3 施設からの参加が主となっている。
- ・研修会が助産師に特化してしまうと、参加人数の増加につなげていくことが困難である。

<県助産師職能委員への要望>

- ・なし

支部助産師職能活動支援 について（ブロック会議・研修運営協力等）

【目的】

現在ある支部助産師職能を合体し、近い支部と協力して助産に関する研修企画や活動を進める支援をする。

【背景】

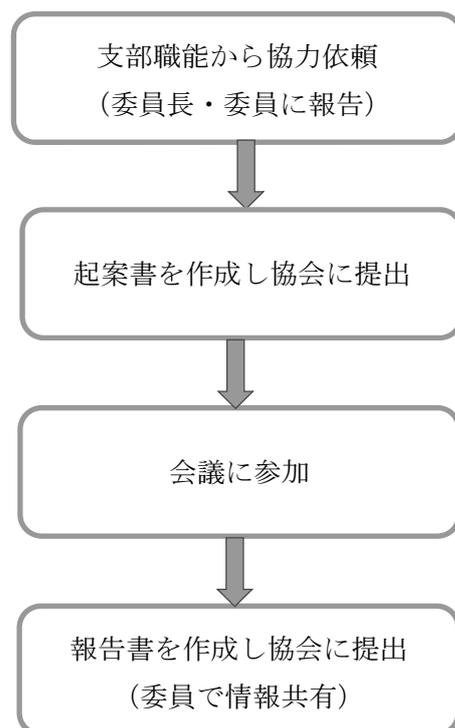
支部代表者会議で、以下の意見があった。

- ◇ 複数の施設が入っている支部がほとんどではあるが、単独の施設だけの支部もあるため、研修会が活性化しない。
- ◇ 支部ごとに活動する際に、他職種との合同研修をする場合もあるが、その場合は助産に特化した研修企画ができない。
- ◇ 県助産師職能委員との連携に関する要望には、連携して何らかの研修をしたい、他支部との情報交換・情報提供の機会を設定してほしい、活動で困ったことなどある時に相談にのってほしい。

【今年度の実績】

ブロック	支 部	県職能委員 担当者	活 動
A	新潟東・新潟西・佐渡	渡邊（紀）・小林	合同会議（研修企画）2回
B	村上・新発田	小田・渡邊（苑）	合同会議（研修企画・他）1回
C	県央・長岡	田中・吉原	合同会議（研修企画・他）1回
D	柏崎・魚沼・十日町・上越	樋口・永重	合同会議（研修企画・他）1回

【ブロック別会議等への参加依頼があった場合の流れ（県職能委員の動き）】



平成 30 年度助産師職能活動計画（案）

活動目標

1. 助産師の連携強化を図り、出産の場や助産師の育成・養成に関する課題についての意見集約をし解決に向けて活動を推進する。
2. 助産師が専門性を発揮し、安全・安心で満足度の高い妊娠・出産・育児支援を提供できるよう支援する。

活動内容

1. 職能委員会 12 回/年
2. 助産師職能集会
メインテーマ 「未来につなぐ助産ケア」
平成 30 年 6 月 20 日（水）13：30～16：00
 - 平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度活動計画
 - 講演 「産後の女性のメンタルヘルスケア ～ バースレビューを中心に ～ 」
講師 常盤 洋子 氏
群馬大学医学部保健学科教授
3. 支部助産師代表者会議 平成 30 年 8 月 23 日（木） 13：00～16：00
4. 助産師職能研修会 平成 30 年 12 月 上旬
5. 施設・開業助産師連携情報交換会 平成 31 年 3 月 2 日（土） 13：00～16：00
6. 調査研究
「新潟県 分娩施設における災害時母子支援対策の取り組み状況の実態」
報告：職能集会、県母性衛生学会又は県看護学会
7. ブロック会議（連携研修会、交流会、情報交換会等）

平成 30 年度

看護師職能 I ・ II 合同集会

平成 30 年 6 月 20 日

新潟県看護協会 看護師職能委員会 I

目 次

平成 30 年度 看護師職能 I・II 合同集会プログラム	1
平成 29 年度 看護師職能 I・II 合同集会評価 集会報告	2
看護師職能(病院領域)委員会 I	
I 平成 29 年度看護協会看護師職能委員会 I 活動報告	5
II 平成 29 年度看護協会看護師職能委員会 I 開催状況	6
III 活動報告	
1 看護師職能 I 病院領域 支部代表者会議	11
2 看護師職能 I 支部活動内容	12
3 看護師職能 I 意見交換会「アンガーマネジメント研修」	13
IV 平成 30 年度活動方針(案)	15
看護師職能 II (看護福祉関係施設・在宅領域)委員会	
I 平成 29 年度看護協会看護師職能委員会 II 活動報告	17
II 平成 29 年度看護協会看護師職能委員会 II 開催状況	19
III 活動報告	
1 看護師職能 II 認知症の理解研修評価	20
2 看護師職能 II 病院領域 支部代表者会議	25
3 看護師職能 II 研修会「施設で働き続ける為のOJT」	26
IV 平成 30 年度活動方針(案)	31

平成 30 年度 看護師職能 I・II 合同集会プログラム

メインテーマ

「看護師としての生き方を考えよう
～地域住民の健康・暮らしを支えるために～」

ねらい：地域包括ケア推進の中で、看護職は多様な働き方を求められている。講師に看護師の立場から看護の現状を本音で語ってもらい、看護職として自身の方向性を見出してもらいたい。

日 時：平成 30 年 6 月 20 日（水） 13:30～16:00

会 場：新潟グランドホテル 3 階 悠久の間

<内容及び日程>

13:00 受 付

13:30 オリエンテーション

開 会 あいさつ

平成 29 年度活動報告及び平成 30 年度活動方針報告

1. 看護師職能委員会 I 委員長 田中 京子

2. 看護師職能委員会 II 委員長 本間 美知子

14:00 特別講演 14:00～15:30

「看護師という生き方」 一看護師は生きてきたように看護する一
講 師 宮子 あずさ氏 看護師 著述業

※講師紹介

1987 年 東京厚生年金看護専門学校卒業

1987 年から 2009 年 3 月まで、東京厚生年金病院に 22 年間勤務。

経験は内科、精神科、緩和ケアの 3 病棟。看護師長歴 7 年。在職中から、
大学通信教育で学び、経営情報学士（産能大学）、造形学士（武蔵野美術大学）、
教育学修士（明星大学）を取得。

2013 年 東京女子医科大学大学院看護学研究科博士後期課程修了。

博士論文「看護師の実存から探る看護師の本質と、それを職業として生きる意味」

主な著書 『両親の送り方—死にゆく親とどう付き合うか』『訪問看護師が見
つめた人間が老いて死ぬと言うこと』など多数。

15:30 質疑応答

16:00 閉 会

参加費 会員：無料 非会員：1,000 円

【平成 29 年度 新潟県看護協会看護師職能 I・II 合同集会】 評価

開催日	平成 29 年 6 月 14 日 (水曜日)
開催場所	新潟グランドホテル 悠久の間
研修目的 または 目標	看護師職能 I 病院領域 II 介護福祉関係施設・在宅等領域 「看護職能 I・II、共に考えよう人間の尊厳—安全に暮らすための支援—」
対象参加人数	参加総数：395 名 看護師職能 I：351 名 看護師職能 II：44 名
研修内容	1 平成 28 年度事業報告および平成 29 年度活動計画 看護師職能委員会 I 委員長 田中京子 看護師職能委員会 II 委員長 本間美知子 2 特別講演 「身体拘束廃止と事故防止 ～決して縛らないをやりとおす～」 講師：介護老人保健施設 星のしずく 看護・介護部長 高口光子 先生
結果・評価	別紙アンケート結果参照 <ul style="list-style-type: none"> ・とてもためになる講義だった。 ・9 割以上の方が満足、ほぼ満足と回答した。 ・9 割の方が現場に活かせると回答した。 ・高口先生のご講義、大変感動しました。普段、当たり前のように行っている抑制について深く考えることが出来た。急性期の治療中のためとはいえ、誰のために行っているのか考え、ケア介入していきたいと思った。外すことができなくても、何のために抑制をしているのか、心の隅に置いてケアしたい。 ・身体拘束をするのは自分自身も辛いものなので、拘束しないことを変えられない現実、高口先生の講演をもっと沢山のスタッフに聞いてもらいたい。 ・講演の内容は、具体的で示唆に富んでいた。軽快な語りで飽きずに時間があつというまだった。 ・上記のような、意見が多数あった。 ・一方で、施設と病院は違うとの評価も散見された。
企画の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・会場へのアクセス、扉の開閉、マイク音、シャッター音等の意見が聞かれた。 ・講師については高い評価を受けたが、施設と病院は違うと言う意見もあり共通の内容を考えていくか、別々の開催を検討しなくてはならない。 ・内容について具体的で非常に分かりやすく「感動した」との意見があり企画としては良かったのではないかと。
次年度に向けての検討課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート内容について、領域、所属施設は必要か否か、経験年数は「何を見たいのか」年数幅を検討する必要がある。 ・会場について、アクセスや駐車場、マイク音、シャッター音等に対して意見をもらった。検討事項としたい。 ・個票の記載の仕方が課題。 ・病院領域と施設領域の期待する研修の違いがあり検討が必要。 ・次年度もタイムリーな話題を提供したい。そのための情報収集等しっかり行い講師依頼をしたい。
担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・田中京子 ・廣木容子 ・石附優子 ・川瀬優子 ・菅野千鶴 ・中谷奈津子 ・佐々木澄江 ◎恩田雅樹

看護師職能 I 新潟県看護協会 「看護師職能 I・II 合同集会」 報告

- 1 日時：平成 29 年 6 月 14 日（水） 13：30～16：00
- 2 平成 28 年度事業報告および平成 29 年度活動計画
- 3 特別講演 「身体拘束廃止と事故防止 ～決して縛らないをやりとおす～」
講師：介護老人保健施設 星のしずく 看護・介護部長 高口 光子

4 アンケート結果

- (1) 参加総数：395 名 看護師職能 I：351 名 看護師職能 II：44 名
- (2) アンケート回収：279（職能 I 回収率 79.5%）
- (3) 参加者背景

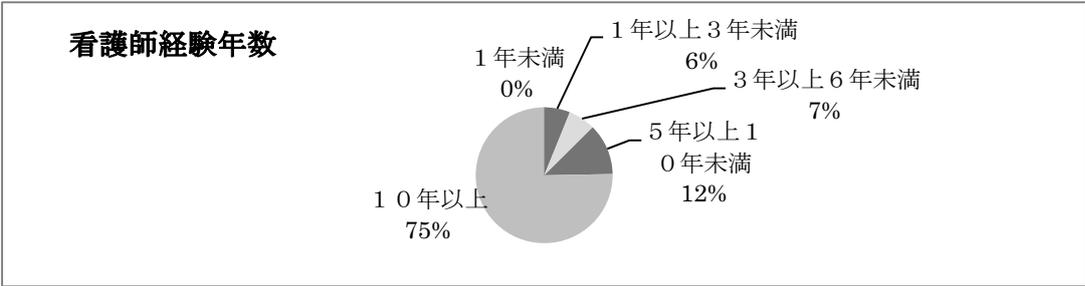
① 所属について

看護師職能領域 I：277 名 保健師職能領域：1 名 助産師職能領域：1 名

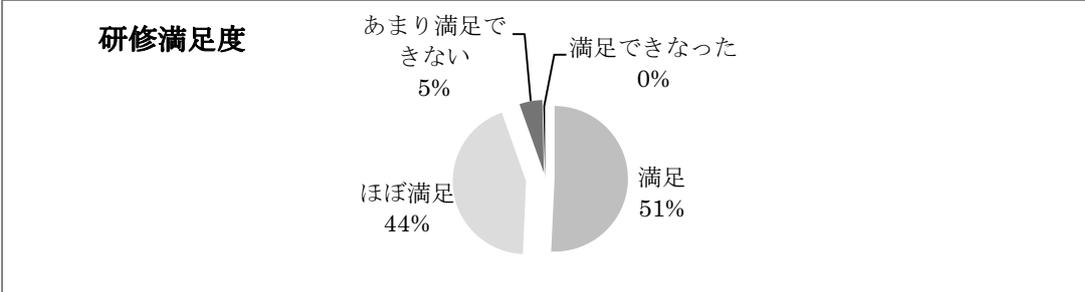
② 勤務先について

病院：272 名 診療所：1 名 その他：6 名

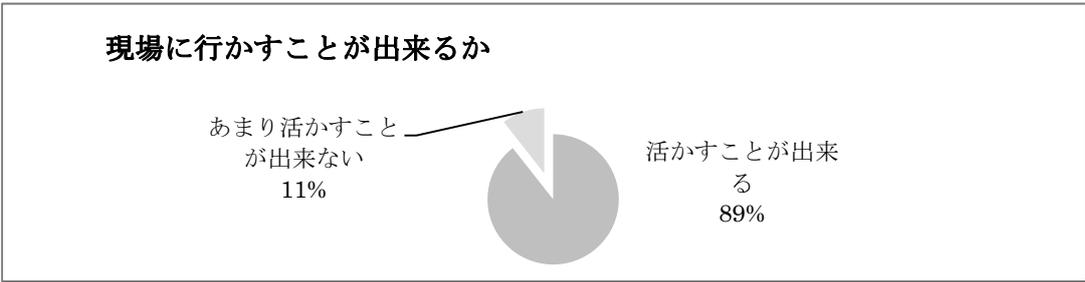
③ 看護師経験年数



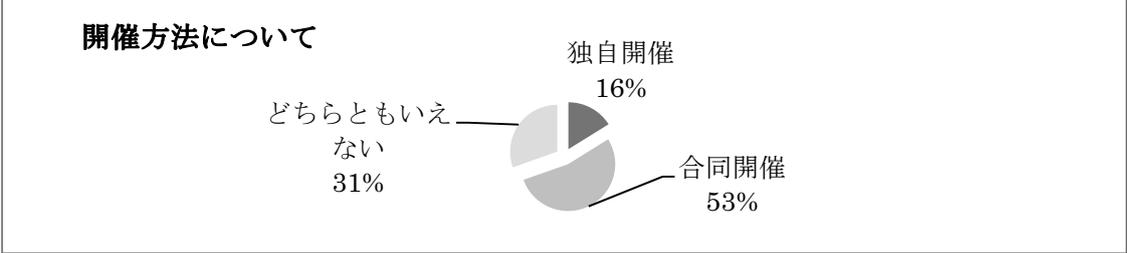
④ 研修満足度



⑤ 現場に活かすことができる



⑥ 開催方法について



⑦ 職能集会について意見（抜粋）

- ・高口先生のご講義、大変感動しました。普段、当たり前に行っている抑制について深く考えることが出来ました。急性期の治療のためとは言え誰のために行っているのか考えケア介入していきたいと思いました。外すことができなくても、誰のために何のために抑制をしているのか、心の隅に置いてケアしていきたいと思います。
- ・理想的な施設だが病院は違う。生命に直に関わることもあるので、理想の中では働いていけない。いらぬという考えは良いがそれ以前に医師、スタッフ、家族とコミュニケーションを取ることが大前提だと思う。
- ・理想：病院の看護師のしていることが全面否定された気がした。（同意見2名）
現状：急性期患者を観ながら少人数でこなしている病院では無理です。
- ・何のために看護師になったのか、初心に戻ることができました。軸をぶらさないということを改めて考えさせられました。現場に戻り伝えたいと思います。
- ・この講演を聞きながら、当院にいる拘束の患者さんを思い出し胸が苦しくなりました。現実に考えさせられるもので、その患者さんの笑顔を見たかと言われると、私はありません。現場に戻り、病棟チームと話し合ってみたいです。笑顔のために…
- ・管理者の責任、新人との関わり、医療安全の点とても参考になった。しかし、拘束に関するエピソード含め疑問が多かった。
- ・理想と現実のギャップが大きいと感じた。（同意見4名）
- ・良い内容で涙が止まりませんでした。（同意見6名）
- ・身体拘束をするのは自分自身も辛いものです。拘束しないことを変えられない現実、高口先生の講演をもっと沢山のスタッフに聞いてもらいたいです。（同意見2名）
- ・講演の内容は、具体的で示唆に富んでいました。軽快な語りで飽きずに時間があっというまでした。（同意見2名）
- ・抑制を外すのは…という考えではなく自分がどのようにしたいかを考えていきたい。
- ・施設と病院では、やはり違う。（同意見5名）・講演時間が長過ぎる感じを受けました。

今後の研修希望等

- ・労働環境問題、時間外勤務について・急性期病棟における身体拘束について
- ・メンタルヘルスについて・スキンケアについて・看護記録について
- ・日野原先生の講演・がん看護について・医療安全・医療事故等について
- ・訪問看護の実状・退院支援について・NICUの実状・地域包括ケアについて
- ・看取り（同意見6名）・緩和ケアについて（同意見4名）
- ・介護施設ではなく、病院で身体拘束について（同意見3名）・認知症ケア（同意見3名）
- ・医療職対策の接遇指導研修

⑧職能委員会活動に対してのご意見・ご要望

- ・1番後ろのドアから何度も係の人が出入りしていてその都度に外の光が目に入って気が散りました。
- ・もっと実践に活用できる研修にしてください。・プログラム通りでなかったのが残念。
- ・数年後ⅠとⅡは別々の研修にしたほうが良いと思います。
- ・時々マイク音が響いて声が聞き取りにくく残念でした。・シャッター音は止めてもらいたい。・スクリーンが後部にもあってとても良かった。
- ・職能委員の方が熱意をもって活動しているということが感じられて良かったです。
- ・職能Ⅱの本間さんの話術が素晴らしかった。
- ・駐車場の確保をして欲しい。団体が乗れるバスなど用意できないでしょうか。遠方の方もおられるので、観光案内などあっても良いのではないのでしょうか。
- ・常に新潟市にしなくても良いのではないのでしょうか。

平成 29 年度 新潟県看護協会看護師職能委員会 I 活動報告

看護師職能 I 病院領域 理事 田中 京子

平成 29 年度は看護師職能 I・II 合同集会のメインテーマを「身体拘束廃止と事故防止」としました。参加者は関心の高さから 395 名となり、講師の高口氏から「決して、縛らないをやりとおす」という信念及びパワフルな実践を聞き、改めて安全管理のための身体拘束について考える機会となりました。病院看護師からは難しい課題であるとの意見も多く、実践するには仕組みを変える必要もあると感じました。

支部活動は大きな混乱がなく進められました。現場からの意見として人員不足に対し「離職防止対策をしているが、新人看護師が来ない、夜勤ができない看護師や時短勤務者が多いとその時間帯のカバーができない」など。時間外勤務の理由は「看護記録が後回しになる、アセスメントや説明・同意に係る文書が多い、医師不足で指示が遅くなる」など。「病棟では認知症高齢者症患者への対応に苦慮している」「在宅療養環境の未整備で退院できない患者がいる」等、問題が山積しています。

意見交換会は「アンガーマネジメントを学び現場に活かそう」の講義を聞き、喜怒哀楽の「怒り」の感情について学び、自分の怒りの傾向を知り、自分とは違う他者の「何々すべき」のべきを知り、歩み寄ることで、生活が豊かに送れる、不要な争いを回避できるなど現場に活かすことができると感じました。グループワーク人数が多すぎるなど企画上の反省点がありましたが、アンケートでは元気をもらえたという意見が大半でした。職場でも伝達講習をしたいなど満足感も高かったようです。次年度は看護記録について考えていきたいと思えます。

平成 29 年度目標

- 1 看護師の職場環境改善に向けた実態調査及び時間外勤務の要因を調査する。
- 2 看護職として働き続けられるための支援を考える。
- 3 支部会員との情報交換を行う。

活動内容

- 1 看護師職能 I・II 合同集会開催
「身体拘束廃止と事故防止～決して、縛らないをやりとおす～」
- 2 看護師職能 I 支部代表者会議開催
- 3 看護師職能 I 意見交換会開催
「リーダーこそ面白い～アンガーマネジメントを学び現場に活かそう～」
- 4 調査研究 県内 127 病院対象「病院における看護記録の実態調査」

職能委員

田中京子 恩田雅樹 川瀬優子 佐々木澄江 廣木容子 庭野千景
飯酒盃千晶 石附優子

平成 29 年度看護師職能 I 病院領域 支部活動内容

支部名	委員会開催状況 (会議の概要・開催数・委員数など)	研修会開催 (月日・テーマ・講師・参加人数・評価)
村上	<p>会議の概要</p> <p>第 1 回役員会：8 月 30 日 内容：29 年事業計画について</p> <p>第 2 回役員会：10 月 3 日 出席者 8 名、欠席者 2 名 内容：次年度支部総会日程、事業計画、予算について</p> <p>第 3 回役員会：1 月 30 日</p>	<p>開催日：平成 29 年 7 月 1 日</p> <p>テーマ：笑いヨガ：笑う門には福来る♪笑って笑って強い心と体を作りましょう」</p> <p>講師：中村 小夜子氏</p> <p>参加数：58 名</p> <p>評価：アンケートでは参加者全員が良かったと回答。楽しかった、心にも体にも良かった、動いて学べる研修会が気軽に参加できてよかったとリフレッシュできる研修で、目標達成できた。</p> <p>開催日：平成 29 年 9 月 23 日</p> <p>テーマ：「看護に触れてみませんか」新潟看護医療専門学校学校祭出店</p> <p>内容：病院紹介、キッズユニフォーム体験、嚥下困難の方への食事、栄養強化食の展示、骨密度測定</p> <p>参加者：約 100 名</p> <p>評価：骨密度測定、キッズユニフォームは講評であった。地域への案内が不十分だったので、検討が必要である。</p> <p>開催日：平成 29 年 12 月 3 日</p> <p>テーマ：三職能合同研修会「平穏死を受け入れるレッスン」</p> <p>村上在宅医療推進センター主催の講演会共催</p>
新発田	<p>会議の概要</p> <p>看護師職能 I、II 研修会開催について</p> <p>開催数：4 回</p> <p>参加人数 4～9 名</p>	<p>開催日：平成 29 年 11 月 25 日（土）13 時 30 分～15 時</p> <p>テーマ：「病を授かって見えたもの」～キャンサーギフトという生き方～</p> <p>講師：フリーアナウンサー伊勢みずほ様</p> <p>会場：新発田市カルチャーセンター 2 階</p> <p>参加人数：99 名</p> <p>評価：アンケートより 94.7%が「とても良い」</p>

		「良い」と回答している。闘病患者の体験をあまり聞く機会がなかったので、大変よかった。わかりやすく聞きやすかった。患者の思いが、わかって勉強になった。病を患ったことで、感じたこと考えることを教えていただき参考になったなどの意見が聞かれた。
県央	<p>会議の概要</p> <p>交流研修会開催に向けての準備</p> <p>開催数：5回</p> <p>委員数：6名</p>	<p>開催日：10月21日（土）14時～15時30分</p> <p>テーマ：「皮膚トラブルを起こさないためのスキンケア」</p> <p>講師：燕労災病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 三須恵美子氏</p> <p>参加人数：48名</p> <p>評価：研修会の内容がわかりやすく、また実践に即した内容であり良かった。アンケート結果より「良い」44名、「まあまあ良い」4名だった。</p>
長岡	<p>会議の概要</p> <p>開催数：6回</p> <p>①平成29年7月31日 5名出席 研修会開催計画など</p> <p>②平成29年8月31日 5名出席 研修会開催計画など</p> <p>③平成29年9月22日 4名出席 研修会準備、案内文発送など</p> <p>④平成29年10月27日 5名出席 研修会準備、当日の役割分担など</p> <p>⑤平成29年11月30日 5名出席 研修会開催、反省</p> <p>⑥平成29年12月22日 5名出席 研修会アンケート結果集計、評価、次年度研修会について</p>	<p>開催日：平成29年11月30日</p> <p>テーマ：ストレス時代の上手な生き方～明日より美しく生きるために～</p> <p>講師：産業カウンセラー 大西金吾氏</p> <p>参加数：67名</p> <p>評価：楽しい研修会だった、元気になったなどの意見があり、概ね良い評価だった。 会場の場所が分かりにくかったなどの意見があり、案内図などが必要であった。</p>
うおぬま	<p>会議の概要</p> <p>看護師職能講演会開催について</p> <p>開催数：4回</p> <p>委員数：5名</p>	<p>開催日：平成29年11月4日（土）13時30分～15時</p> <p>テーマ：「楽しく食べて いきいきと！！ 年代に合わせていきいきと」</p> <p>講師：湯沢保健医療センター栄養室長</p>

		<p>管理栄養士 柳真紀先生</p> <p>会場：ふれあいセンター 多目的ホール</p> <p>評価：アンケートの結果「良かった」59名、「普通」4名だった。わかりやすかった、楽しく学べた。災害時の食事について参考になったなどの意見があった。</p>
十日町	<p>会議の概要</p> <p>保健師、助産師、看護師三職能合同研修会</p> <p>開催数：3回</p> <p>委員数：14名</p>	<p>開催日：平成29年11月11日</p> <p>テーマ：抗うつ薬は自殺を減らすのか 「死にたい」打ち明けられたら</p> <p>講師：中条第二病院 副院長 渡邊純蔵様</p> <p>参加人数：63名</p> <p>評価：研修の内容は妥当であった。講演は分かりやすく、内容、アンケートにおいては「良かった」と高評価であった。</p>
柏崎	<p>会議の概要</p> <p>開催数：3回</p> <p>①平成29年7月7日</p> <p>研修企画</p> <p>②平成29年9月29日</p> <p>案内状作成</p> <p>③平成29年11月11日</p> <p>事前打ち合わせ</p>	<p>開催日：平成29年11月29日19時～20:30</p> <p>テーマ：看護職のための口腔ケア</p> <p>講師：歯科医師前川雄哉先生</p> <p>参加者：49名</p> <p>評価：日勤終了後参加できるよう、平日夕方に開催した。会員以外でも参加できるよう地域の施設に案内を出した。興味のあるテーマであったこと、研修会前に交流会を開催したこともあり、参加者は昨年より多かった。満足度も高かった。</p>
上越	<p>会議の概要</p> <p>開催数：4回 委員数：6名</p> <p>第1回：研修会企画運営について</p> <p>第2回：研修会案内発送</p> <p>第3回：研修会開催</p> <p>第4回：研修企画評価、次年度の研修会について</p>	<p>開催日：平成29年10月26日</p> <p>テーマ：ケアする人のケア研修 心と体が楽になるメンテナンス</p> <p>講師：水科江利子氏</p> <p>参加者：34名</p> <p>評価：昨年に引き続き要望の高かったリラクゼーションを目的とした研修を開催した。他の研修を重ねたが、昨年を上回る参加人数だった。先生の巧みな話術と体操で、心と体もリフレッシュできた、涙が自然と流れ、自分自身を見つめなおす機会となったなどの意見があっ</p>

		た。
佐渡	<p>会議の概要</p> <p>開催数:3回 委員数7人</p> <p>①平成29年7月4日 職能研修会開催について打ち合わせ</p> <p>②平成29年8月1日 平成29年度委員会活動計画について</p> <p>③平成29年9月9日 職能研修会の準備・反省 今年度の職能活動の振り返り 次年度にむけての話し合い</p>	<p>開催日:平成29年9月9日</p> <p>テーマ:ホワイトミーティングケース会議をやってみよう</p> <p>講師:株式会社ひとまち 奥西春美氏</p> <p>参加数:36名</p> <p>評価:平成28年はホワイトミーティング基本編の研修を行ったところ大好評であった。それと共に実践をふまえた研修内容の要望が多く、今年度は第2弾を企画した。慣れない中、質問しながらホワイトボードに書くことの難しさもあった。アンケートでは今後活かそうという意見が100%。ケース情報のまとめ方、アセスメントの仕方の支援までとても分かりやすかったという意見があった。市主催の研修会と重なり、参加者が少なかったが内容の濃い研修会であった。</p>
新潟東	<p>会議の概要</p> <p>研修会の検討、企画運営</p> <p>開催数:毎月1回 年間10回</p> <p>8月12月は会議なし</p> <p>委員数2名</p>	<p>看護師職能Ⅰ・Ⅱ研修会(東西支部合同)</p> <p>評価:参加人数は会場の広さなど考慮すると妥当であった。参加者は、20歳代から60歳代で年代に関係なく平均的に参加していた。アロマセラピーは、癒しという漠然とした効果ではなく、芳香成分が持つ薬理作用を利用した心身の疾病の予防や健康の維持増進を支える植物療法である。アンケートから既に施設で取り入れている、または検討中の所もある。自身の健康維持だけではなく、患者・利用者にも活用できる。もっと各論的なことも聞きたかったと興味深さが窺えた。</p>
新潟西	<p>会議の概要</p> <p>研修会の検討、企画運営</p> <p>開催数:毎月1回 年間10回</p> <p>委員数2名</p>	<p>看護師職能Ⅰ・Ⅱ研修会(東西支部合同)</p> <p>開催日:平成29年11月8日(水)</p> <p>13時30分~15時30分</p> <p>演題:アロマセラピーの魅力と可能性について</p> <p>講師:NPO法人アロマ・リンクステーション 理事長看護師 大山朋子先生</p> <p>会場:新潟県看護研修センター</p>

	<p>参加人数：90名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修後のアンケート評価 大変満足 40%、満足 35%、まあまあ満足 18%、普通 6%、やや不満 1%、不満足 0% ・感想・意見 「今後病院内でもアロマセラピーを実施したい。」「セラピストになってみたくなった。とてもわかりやすかった。認知症の多い病棟で活かしたい。」「大変興味深く聴くことができた。」「アロママッサージによる気持ちいい、癒されるというのは解剖学的な根拠があることが分かった。」などであった。今回は新潟東支部が中心となった企画だった。昨年より1ヶ月早い講演の開催だったが、東西支部で連絡を取り合いながら準備を進めることができた。当日は大きなトラブルはなかった。
--	---

テーマ	看護師職能 I 病院領域 支部代表者会議報告				
領域	看護師職能 I	会場	看護研修センター2 階 中研修室 2	受講料	会員 なし 非会員 なし
対象	看護師職能 I 支部代表者及び看護師職能 I 委員 募集数(19人)応募数(19人)参加数()人 会員数()人 非会員数()人				
日時	平成 29 年 8 月 17 日 (木) 13:00~16:00				
ねらい (目標)	1. 平成 29 年度支部活動について情報提供を行う 2. 問題点、課題などについて共有し、改善策を考えることができる				
講師	看護師職能 I 委員長 田中京子				
内容・方法	情報交換、グループワーク 1 G : 県央、長岡、うおぬま、十日町、上越、柏崎 2 G : 佐渡、村上、新発田、新潟 (西)、新潟 (東)				
結果・評価 (受講者の意見 感想含む)	1 G : 3、4 年目がやめてしまう、人員が不足している、どうしたらよいか 高齢者が多く、安全を守るための対策が多く、忙しい 急変やナースコール対応に追われ、記録するのは後回しになってしまう 医師不足から入院患者が減り、看護師が余っている 時短、日勤深夜の看護師を早く帰そうとすると、他のスタッフの負担が増える 高齢者、独居、認知症患者などの退院支援が難しい 退院支援看護師、MSWとの連携がまだうまくいかない 2 G : 新人看護師の離職が多い、新人が就職しない 時短職員の対応、どうしているか、夜勤人数の確保が難しい 緊急入院が多いと、時間外が増える 時間外は少ないが、新人の就職がなく、再雇用の職員もいる 発達障害の学生へも増え、一人ひとりにあわせて対応している 在宅医療への対応、訪問看護師との連携				
企画の評価	<ul style="list-style-type: none"> 各支部計画はすでに立案されており、大きな混乱はないようだった。 人員不足、離職防止、時短職員への対応など、現場は苦慮しており、様々な施設での対応について意見交換できた。 看護記録が後回しとなり時間外勤務の原因となっている、という意見があった。今年度職能委員会活動を通して、少しでも現状の問題を明らかにし、問題解決の参考としてもらいたい。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 看護記録が時間外勤務の原因となっているという意見があるため、委員会では看護記録の実態調査を行い、現状把握していく。 				
担当者	◎川瀬 優子				

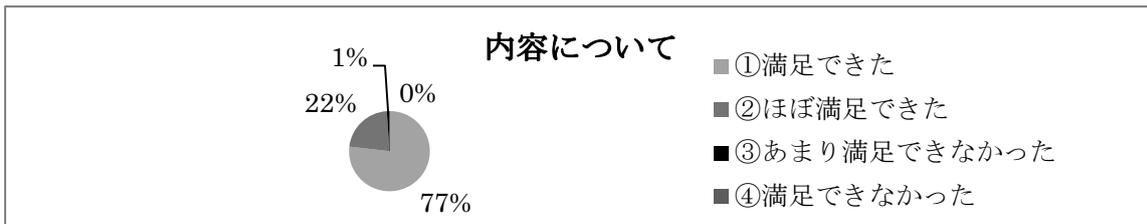
テーマ (12フォント)	平成 29 年度 看護師職能 I 意見交換会				
領域	看護師職能委員会 I	会場	3 階大研修室	受講料	会員 非会員
対象	学習段階レベル (IV以上) 募集数(100 人)応募数(98 人)参加数(98 人)会員数(人)非会員数(人)				
日時	平成 29 年 10 月 22 日 (土曜日) 10:15~16:00				
ねらい (目標)	1. リーダー、主任などがコミュニケーションの一つとして、アンガーマネジメントを学び、対応次第で良好な関係が築けることで日頃のストレス解消につなげる 2. 地域包括ケアシステムが進む中、急性期・一般・慢性期病院など、すべての病院に勤める看護師が疲弊してきている。今後看護師として働き続けていくために、看護師同士で共通の話題で意見交換を行い、リフレッシュできることを目的とする。				
講師	一般社団法人アンガーマネジメント協会公認 アンガーマネジメントシニアファシリテーター 光前 麻由美氏				
内容・方法	講義・演習				
結果・評価 (受講者の意見感想含む)	<p><アンケートについて></p> <ul style="list-style-type: none"> 内容について：満足 77%, ほぼ満足 22%, あまり満足できない 1% 看護の振り返り：十分できた 30%, ほぼ出来た 59%, あまり出来なかった 9%, できなかった 2% グループワーク：満足 53%, ほぼ満足 42%, あまり満足できない 5% <p><講義、演習について></p> <ul style="list-style-type: none"> 光前先生の講義は、人間の自然な感情である「怒り」に焦点を当て、アンガーマネジメントのスキルを教えていただいた。怒りとアンガーマネジメントの方法を知ることができ、自分の怒りを客観視し、怒りを感じた後に起こす行動をコントロールすることができる、そして怒りの連鎖を断ち切り、良好な人間関係作りや自己のストレス解消にもつながることを講義や演習を通して学ぶことができた。現役の看護師である先生の生き生きとした講義は、非常に共感する内容が多く、頑張っている先生の姿から、私達も元気をいただくことができた。 				
企画の評価	<ul style="list-style-type: none"> リーダー、主任はその年代から家庭と仕事を両立する上でも様々なストレスを感じていると思われる。アンガーマネジメントを仕事や家庭で活用することができれば、自分の気持ちが楽になり、生き生きと看護師を続けられるのではないだろうか。また演習では様々な施設の看護師同士で意見交換でき、会場全体が明るい雰囲気に包まれた。研修のねらいを十分達成することのできる内容であった。 				
課題	参加人数が多く、1 グループ 7~8 人の演習としたため、参加者が十分意見を出せなかったのではないかと思う。少人数のグループ編成にしたほうがよかった。テーブルの位置が講師に背をむけるような形となったため、工夫が必要であった。				
担当者	文責者には◎・氏名はフルネームで記載する ◎川瀬優子				

平成 29 年度 看護師職能病院領域 意見交換会アンケート結果

- 1 日時：平成 29 年 10 月 21 日（土）10:00～16:00
- 2 場所：看護研修センター
- 3 テーマ：「リーダーこそ面白い～アンガーマネジメントを学び現場に活かそう～」
- 4 講師：一般社団法人アンガーマネジメント協会認定
アンガーマネジメントファシリテーター 光前 麻由美氏
- 5 参加人数：98 名
- 6 アンケート結果 アンケート回収：95 名（回収率：96.9%）
 - I-1 所属施設 病院：93 名（97.9%）
 - I-2 経験年数



II-1 内容について



II-2 看護の振り返り



III-1 グループワークについて



IV その他、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。（原文）

【感想等】

- ・夜勤明けの研修でしたが楽しく講義を聴かせて頂きました。病棟スタッフにも伝えていきたいと思います。
- ・とても楽しい研修で気持ちが楽になりました。

- ・気持ちが楽になりました。自身の整理に役立てていけそうです。
- ・本当に分かりやすい内容でした。「アンガーマネジメント」にとっても興味を持ちました。とても有意義な時間を過ごせました。有り難うございました。
- ・対人間と関わる中で色んな感情を大切にしながら、自分の基準を明確にしていくようにしたいと思いました。
- ・自分の考え方のパターンを改める良い機会を頂くことができました。
- ・職場だけでなく私生活でも役立つ研修で実践したいと思いました。
- ・自分の生活、仕事の中で活かしていきたいと思いました。
- ・アンガーマネジメントの更にステップアップした講義を聴いてみたいと思った。
- ・アンガーマネジメントを勉強したいと思いました。
- ・アンガーマネジメントは10年～15年の中堅看護師に行った方が良いと思う。
- ・アンガーマネジメントを日頃活用していきたいです。自分の感情と上手く付き合って怒りのコントロールをしていきたいです。
- ・後悔ない怒りができるように考えていきたいと思います。
- ・大変勉強になりました。自分の感情（怒り）を分析することはあっても、どうしたらよいのか答えが出ないことも多く、今回の講義を聴いて答えが見えてきました。
- ・病院や施設はちがえど、内情は同じであり共有することが多かったです。
- ・これ、分からないなと思っていたことを、丁寧にお話してくださって理解できるようになりました。
- ・看護観というより人生観という感じがした。
- ・とても勉強になりました。
- ・また、先生の話が聞きたいです。
- ・あきらめ＝放っておく・・・なののでしょうか？

【意見等】

- ・アンガーログをスムーズに記入するために、事前学習で最近怒ったことをあげてくる等があると良かった。
- ・もう少し楽に聞きたかった。「ムカツク人」のコントロールもしてもらいたい。
- ・今回の講義は大勢の看護師に聞いて欲しいと思いました。
- ・GWは分かりますが、講師の話聞くのに真後ろは聞きづらかった。(同意見3)
- ・GWになってから席を変えるべき。
- ・最初から背を向けて聴くことになった。何故そうなったのか。
- ・アンガーマネジメントについては理解できましたが「リーダーこそ面白い」というテーマはピンときませんでした。
- ・書きにくいので6人グループにしてもらうか、7～8人用の机を増やして欲しい。
- ・以前から興味のある内容だったので講師の方から直接お話が聞けて良かった。GWの人数が多すぎて全員で話すことが難しかった。
- ・グループが近すぎて。回りの声が近く話しにくく聞こえづらい。
- ・コーヒー、お茶のサービスはとてもありがたかったです。

平成 30 年度看護師職能委員会 I 活動方針(案)

目標

1. 看護記録実態調査報告、問題・課題の抽出を行う。
2. 看護師として生き生きと働き続けられるための支援を考える。
3. 支部会員との情報交換を行う。

活動内容

1. 看護師職能 I・II 合同集会

日時：平成 30 年 6 月 20 日（水）13：30～16：00

1. 平成 29 年度活動報告及び平成 30 年度活動方針報告
2. 特別講演 「看護師という生き方、看護師は生きてきたように看護する」
時 間 14：00～15：30
講 師 宮子 あずさ氏 「看護師 著述業」
座 長 看護師職能 I 委員長 田中 京子

2. 看護師職能 I 支部代表者会議

日時：平成 30 年 8 月 16 日（木）

場所：看護研修センター

内容：各支部看護師職能 I 委員の現状の問題・課題、ネットワーク等についての意見交換

3. 看護師職能 I 意見交換会

日時：平成 30 年 11 月 17 日（土）10 時～16 時

場所：看護研修センター3 階大研修室

講演：テーマ 「病院における看護記録の実態調査から問題・課題について」

講師 中島 美津子氏

対象：中堅看護師 100 名

内容：1. 看護記録の実態調査研究結果報告

2. 講演

3. グループワーク

※ 新潟県看護協会のホームページにて案内

平成 30 年度

看護師職能 I ・ II 合同集会

平成 30 年 6 月 20 日

新潟県看護協会 看護師職能委員会 II

平成 29 年度新潟県看護協会看護師職能委員会Ⅱ介護福祉関係施設・在宅領域活動報告

看護師職能Ⅱ委員長 理事 本間 美知子

看護師職能Ⅱ（介護福祉関係施設・在宅領域）も今年度で6年を迎えました。現在では看護師職能Ⅱ領域の理解も得られ、認知度も高くなり、研修等の参加者が当初より多くなった感があります。

今年度の看護師職能Ⅰ・Ⅱの合同集会は、身体拘束に関する研修会を開催し、施設等では身体拘束は禁止されていますが、病院等では様々な理由によりまだ身体拘束は散見されている実情があります。そこで、特別講演として「身体拘束廃止と事故防止」

～決して縛らないをやりとおす～と題して、講師に老人保健施設「星のしずく」管理者である高口光子氏を迎えてご講義頂きました。

ユーモアと自施設での実践例を交え、これからの看護師に身体拘束に対する考え方と意識改革を熱弁をふるって語りかけ、安易に身体拘束はしないという考えを私たちに教えてくださいました。

当日は 395 名の参加者があり、「笑い涙あり」の心に響く集会となりました。

平成 29 年度は「看取り研修」と「介護福祉施設・在宅領域勤務の看護管理者育成」を重点事項として掲げ、定例委員会と研修会を実施してきました。

さらに、看護師職能Ⅱ領域の看護師会員を増やす計画を立てましたが、思うように会員増につながらず、理由としては、施設等に所属する看護師そのものの人数が少なく、研修等に参加するだけの余裕のない業務実態があるのではないのでしょうか。

そこで今後の会員増に向けて、職能Ⅱ領域の『組織力強化』と『魅力ある研修』を今後も継続して計画し、皆様の業務にすこしでも役に立てるよう委員一同尽力して参ります。これからも会員増への働きかけは継続していきますので、今後とも、職能Ⅱ領域へのご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成 29 年度目標

- 1 支部職能委員との連携をはかり、看護師職能領域Ⅱの問題・課題の抽出を行う
- 2 看護職の質向上のため研修会・勉強会を実施する
- 3 看護師職能Ⅱ領域の看護協会入会者増加に向けた取り組み

活動内容

- 1 研修会実施時の看護協会入会への声かけ、入会の促し、支部職能委員への働きかけ
- 2 「看取り研修」「介護福祉施設・在宅領域勤務の看護管理者育成」
- 3 支部職能代表者会議の充実と委員との連携

職能委員

本間 美知子 小松 順子 高橋 英樹 渡辺 真奈美 外山 章子
渡辺 秀子 柿村 美幸 村川 英伸

平成29年度 新潟県看護協会看護師職能（I・II合同）集会 評価

テーマ（12フォント）	「看護職能I・II 共に歩もう 共に考えよう人間の尊厳」				
領域	職能I、II	会場	新潟グランドホテル 悠久の間	受講料	会員・非会員とも無料
対象	学習段階レベル（I～V） 参加数（395人 うち看護職能II領域 44人）				
日時	平成29年 6月 14日（水曜日） 13:00～16:00				
ねらい（目標）	認知症になっても、最期まで人間らしく尊厳を保つことを支援することの重要性を共に考え、共通理解を図る。				
講師	介護老人保健施設 星のしずく 看・介護部長 高口 光子氏				
内容・方法	1. H28年度事業報告及びH29年度活動計画 2. 特別講演I 「身体拘束廃止と事故防止」 ～決して縛らないをやりとおす～ 講師 介護老人保健施設 星のしずく 看・介護部長 高口 光子氏 座長 看護師職能委員会II 委員長 本間 美知子				
結果・評価 （受講者の意見 感想含む）	別紙 アンケート結果参照 98%の方が満足、ほぼ満足の回答 88%の方が今後、職場に活かせると回答 感想等では、私も老健勤務しており拘束しないケアに取り組んでいますが、「老健は拘束できないところだから」という考えでしたが、なぜしないのかという本来の思いを知ることができました。等、非常に好評な感想をいただきました。				
企画の評価	今回の特別講演は、地域包括ケアシステムの推進に向け、看護師職能IとII領域が継続的に連携することが重要である中で、認知症の患者が病院を退院後、在宅や施設で生活する際に、いかなる時でも、身体拘束等の人権を侵害する行為をされない社会を築く、その場にかかわる看護者の意識と役割を理解し、各職場でその力を発揮してもらうべく実施した。 人間の尊厳の保持という非常に重要なテーマで、講師については力強く、わかりやすく説明していただいた高口光子先生を招聘できて良かった。 参加された会員のほとんどが満足して帰宅された様子だった。				
課題	今回のアンケートでは、次回以降の看護師職能IとIIの合同集会を個別に開催した方がよいのか聞いたが、職能II領域の方々は、単独開催を希望したのは全体の10%。今まで通り合同開催希望は52%。どちらともいえないと答えたのは38%となった。今後の看護師職能集会運営については、ひきつづき職能I・IIと協議し対応したい。				
担当者	本間美知子・小松順子・高橋英樹・外山章子・柿村美幸・渡辺秀子 ・渡辺真奈美・◎村川英伸				

平成 29 年度 看護師職能委員会 II 開催状況

開催回数 10回

開催日時及び検討内容

	開催日	議題・検討事項	備考
第 1 回	6 月 17 日	年間計画及び役割分担 認知症研修会準備	開催日時 毎月第 1 火 (原則)
第 2 回	7 月 8 日	「看取り」研修 ～尊厳ある死を考える～ 石飛 幸三氏による職能 II 領域で勤務する看護師向け研修	参加 75 名
第 3 回	8 月 17 日	支部職能代表者会議	参加 14 名
第 4 回	9 月 5 日	平成 30 年度職能集会講師の検討 その他代表委員ごとの報告、課題検討 「施設管理者研修」についての素案作成	
第 5 回	11 月 7 日	施設管理者研修「施設で働き続ける為の OJT」 についての参加者とりまとめ、役割分担 平成 30 年度職能集会について	
第 6 回	11 月 25 日	施設管理者研修「施設で働き続ける為の OJT」 実施 関谷 裕一氏を講師に施設リーダーとして 必要な人材育成と経営参画の知識を学んだ	参加 74 名
第 7 回	12 月 5 日	「施設管理者研修会」評価と反省、平成 30 年度 看護師職能 I・II 合同職能集会について、平成 30 年度職能 II 委員会研修計画 (案) 作成	
第 8 回	平成 30 年 3 月 6 日	平成 30 年度、看護師職能 I・II 合同集会案の作 成、準備及び集会テーマ等について、職能 I 委 員会と検討 平成 29 年度活動まとめ	
第 9 回	4 月 10 日	平成 30 年度職能合同集会資料作成 当日の役割分担	
第 10 回	5 月 8 日	摂食・嚥下研修会準備	

テーマ	「看取り」研修 ～尊厳ある死を考える～				
領域	職能Ⅱ	会場	NSG カレッジリーグ 学生総合プラザ STEP	受講料	会員・非会員とも無料
対象	学習段階レベル（Ⅰ～Ⅴ） 募集数（100人程度）参加数（75人）会員数（54人）非会員数（21人）				
日時	平成29年 7月 8日（土曜日） 9：30 ～15：00				
ねらい（目標）	介護福祉施設において高齢者の「看取り」についての基礎的知識と家族支援の在り方を多職種との連携の中で、看護職の役割について共通認識を図る。				
講師	東京都世田谷区 特別養護老人ホーム 芦花ホーム 医師 石飛 幸三氏				
内容・方法	講演を聞き、その後のグループワークで自施設における「看取り」実現をするための方策を考える。				
結果・評価 （受講者の意見 感想含む）	<p>講演後のアンケートより、老健所属の看護職員の参加は21名で全体の約3割。病院、特養、訪問看護の職員の参加はそれぞれ約2割ずつをしめた。</p> <p>ほぼ全員が、満足・ほぼ満足の回答し、さらにこの研修を職場に活かせると回答。受講生の感想として、「石飛先生の講義は大変すばらしく感動しました。看取りについて大変興味を持ちました。」「看取り・平穏死についてしっかり考え、学んでいきます。」「最後をどういうふうに終えたいかということ自らしっかりと伝えていかなければならないと思いましたし、入所している方も又家族も最後をどのように終えたいかということもしっかりと確認することが必要だと思いました。」</p> <p>またグループワークでは、「各々の事業所の取り組みが分かり良かったです。」など、非常に好評な感想をいただいた。</p>				
企画の評価	<p>平成29年度の看護師職能領域Ⅱの活動として、地域の状況にあわせた医療・看護体制整備のあり方で、看取り期の救急搬送について検討する目標が掲げられた。</p> <p>平成22年に出版された石飛氏の著書『「平穏死」のすすめ』で、老衰の終末期の医療については、むりに医療的措置を行わない方がむしろ安らかに死を迎えられる場合があるという見解を発表し注目されたが、その後も病院以外で看取られるケースは微増となっている。</p> <p>今後の医療政策でも、看取り期（人生の最終段階）の医療やケアについては、繰り返し話し合いを行って、本人の意向に沿ったものにすべきという方針でもある。</p> <p>そのために看取りに関わる立場の専門職としては、引き続き、実践者からの報告や情報共有等で理解を進めてケアに当たらなければならない、それに対しては、今回の講演とグループワークは、有用なものであったと評価している。</p>				
課題	看取りについての研修は、社会情勢や会員のニーズを取り入れながら計画していきたい。次年度も看護師職能Ⅰ領域と共に必要と感じている課題（医療事故・安全、患者家族対応、地域包括ケア等）をあげ、重要課題として計画していきたい。				
担当者	本間美知子・小松順子・高橋英樹・外山章子・柿村美幸・渡辺真奈美 ・渡辺秀子・◎村川英伸				

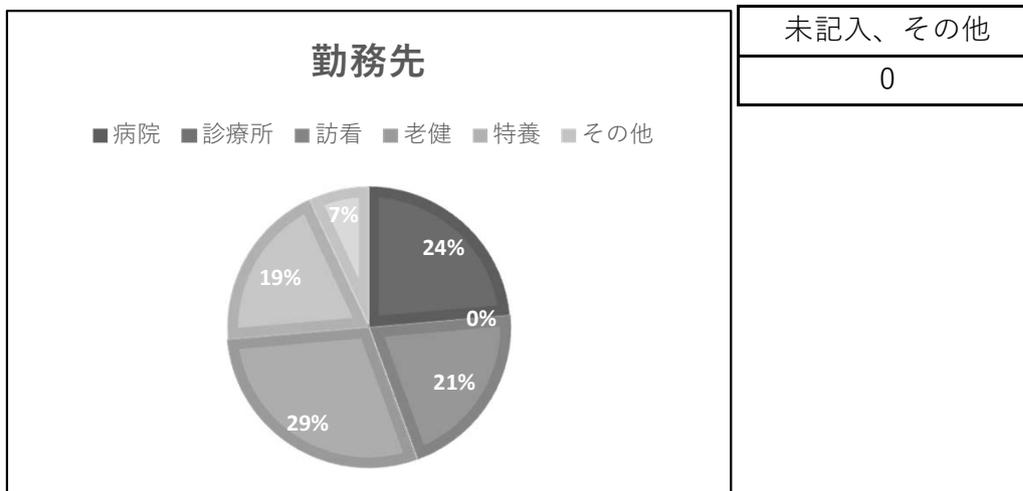
H29年7月8日(土)

研修総出席数	75
--------	----

1. 勤務先について教えてください

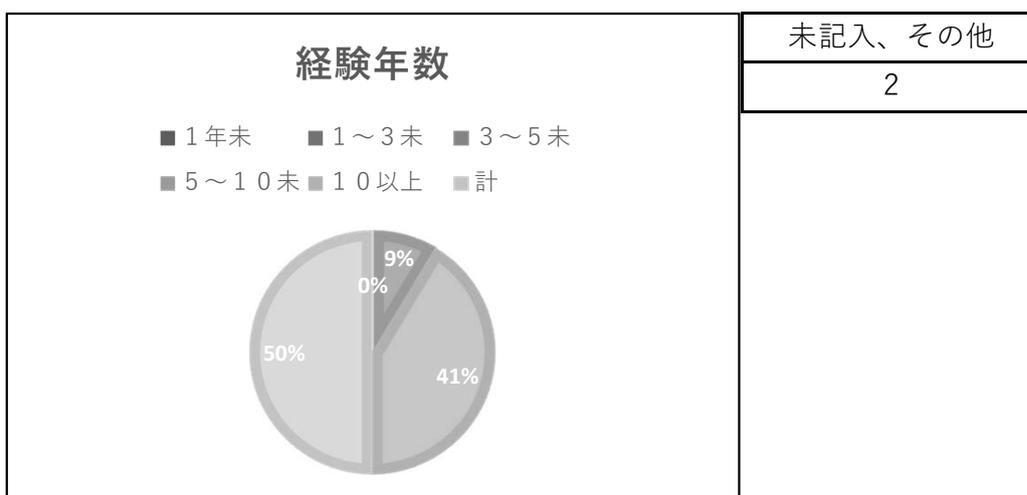
病院	診療所	訪看	老健	特養	その他	計
17	0	15	21	14	5	72

その他(認知症高齢者グループホーム、介護付有料老人ホーム等)



2. 経験年数

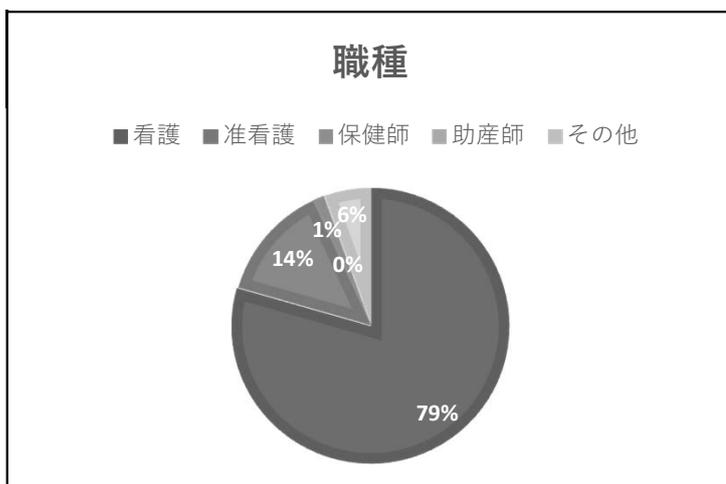
1年未	1～3未	3～5未	5～10未	10以上	計
0	0	0	12	58	70



3. 職種

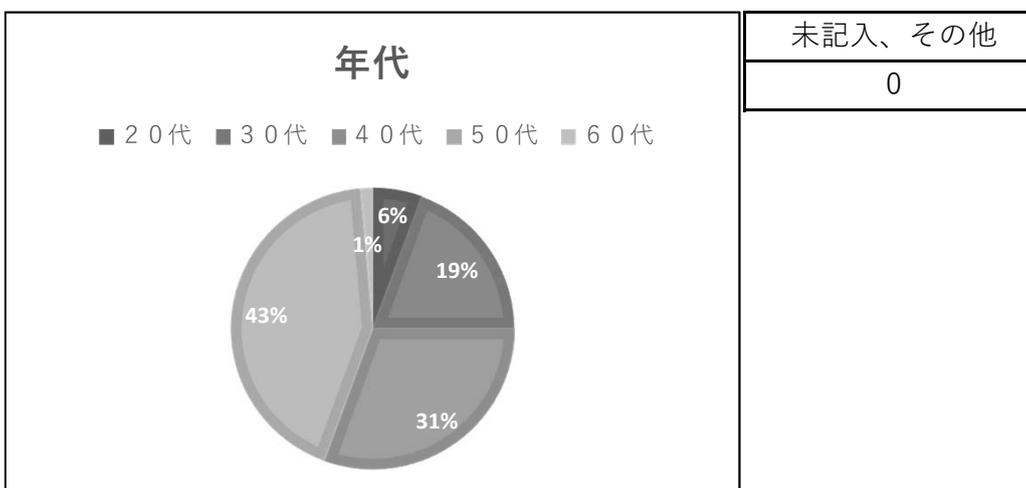
看護	准看護	保健師	助産師	その他	計
58	10	1	0	4	73

その他(介護士、介護福祉士、ケアマネ(ケアマネのみ看護と複数回答+1あり))



4. 年代

20代	30代	40代	50代	60代	計
4	14	22	31	1	72

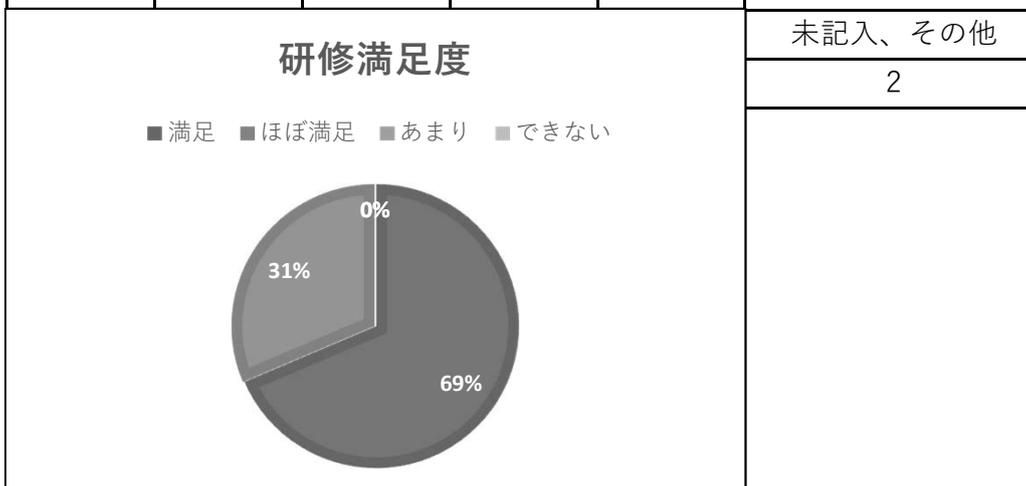


未記入、その他

0

5. 研修満足度

満足	ほぼ満足	あまり	できない	計
48	22	0	0	70



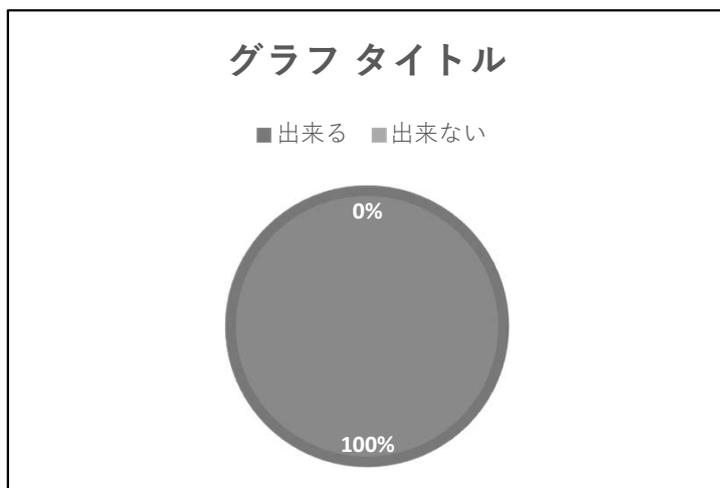
未記入、その他

2

6. 今後現場に活かすことができますか

出来る	出来ない	計
68	0	68

未記入、その他
4 保健師



7. 施設で看取りをすることをどのように考えますか

時代のニーズを取り入れる必要がある	22
本人・家族の希望を重要視して、その時の状況に臨機応変に対応する	52
施設の方針に従う	9
その他	4

複数回答 + 15回あり

その他

現在進めている看護師にかかわるメンタルストレスが多い、他職種にも受けてもらいたい
 当施設では看取りに力をいれている、ご本人が苦痛なく安楽に最後を迎えられるよう、
 ご家族に悔いが残らないようを考えています
 どれも当てはまる
 家族へ納得して頂けるよう医療面でできる事、そうする事でどうなるのかきちんと説明していく

8. 感想、要望、ご意見

21人分

同業でも事業者によって違いがあると思った

今後看取りになるであろう事例についてアドバイス等グループワークで聞けて良かった

今回の会場は駐車場もあるため良かったです。

大変勉強になりました

グループワークでは、各々の事業所の取り組みが分かり良かったです。またこのような研修を希望します

市民向けに看取りを身近に感じてもらえるようなセミナーを開くとよいのではないのでしょうか

石飛先生のお話を聞けて良かった。芦花ホームのDVDを見て感激しました

パワーポイント、講演での話し方、とても分かりやすかったです。

現場で経験したこと、映像が目には浮かび心に深く訴える内容でした。

職場で生かせるか残念ながら難しいかもしれませんが、1人1人が考えをあらためることが、
一歩につながるとおもいました。

仕事上、常にかんがえさせられている事をすべて言葉にしてお話をきかせて頂いたように感じました。
すばらしいお話、何回も泣いてしまいました。

患者さんの自然のレベル低下に対する考え、家族の方にもうまく伝えられるといいなと思います。

「平穏死」ということを初めて知りました。人間の命は人それぞれなので、最後をどういうふう
に終えたいかということからしっかりと伝えていかなければならないと思いましたし、入所している方
も、また家族も最後をどのように終えたいかということからしっかりと確認することが必要だと思
いました。

他の施設等の話を聞け、勉強になり、石飛先生の話はとても勉強になった。今後生かしてい
きたい
石飛先生の講義、大変すばらしく感動しました。看取りについて大変興味を持ちました。看取り
平穏死についてしっかり考え、学んでいきます。

実践的口腔ケアについて研修をしてほしい

沢山の意見が聞けてとてもよかった

パワーポイントの内容を資料として欲しかった

出される内容をメモする事に必死になっていました。

大変参考になりました。ありがとうございました。

石飛先生に会えて（見れて）よかった。

看護職と介護職の協働についての研修

他の施設の方のお話が聞けてグループワークはとても有意義なお話でした。

尊厳とは何か、毎日の業務の中で利用者様とすごし、ご家族と関り方、穏やかな最期を見届
けられるようになりたいと思いました。

土日の研修会はやめた方がよい

普段の仕事の中で感じているジレンマやうまくいかないことを旧友出来て良かったです。

石飛先生の公演とても良かったです。最後のDVDとても感動しました。「死」と言う

とてもナーバスですが、ずっと考えさせられる課題だと思います。答えがでない事かと思
います。

テーマ	平成 29 年度 支部職能代表者会議 職能領域Ⅱ集会				
領域	職能領域Ⅱ	会場	県看護協会 2階研修室	受講料	会員：なし 非会員：なし
対象	1 1 支部職能代表者（7人）看護師職能Ⅱ委員（7人） 参加数（14人）会員数（14人）非会員数（0人）				
日時	平成29年8月17日（木曜日） 13：00～16：00				
ねらい （目標）	支部職能委員との情報交換を行い、職能領域上の問題点を見出し、今後の委員会活動に役立てる。				
講師	なし				
内容・方法	1. 全体会議（会長・役員講演、質疑応答） 2. 職能別会議（自己紹介、看護師職能Ⅱ本間委員長からの今年度の活動方針説明、全国職能委員長会議報告、各支部の問題点および意見聴取、所属組織における問題点および意見聴取）				
結果・評価 （受講者の意見 感想含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11支部のうち3支部は職能Ⅱの代表者が空席となっている。 ・ 入会のメリットが不明瞭な印象で、会員が増えない。昨年も代表者もいなかった。支部内の職能Ⅱの他の協会会員がわからない状況。 ・ 入会しても、研修1回参加するのに1日かかり、割に合わない印象。日精看に所属するとその他の会員になることは無理な人が多い。研修会場については、長岡や上越でも研修があれば参加数が増えると思う。 ・ 支部内の看護学校には、市内の高校生を入学してもらい、卒業生を市内に勤めるようにしている。その後、結婚しても地元で勤めるような方向性の話しをしている。 ・ 県央地区でも老健施設での看取りが多くなっている。骨折、心不全などの疾患は県央地区ではスムーズに受け入れできないケースが多い。 ・ 支部内の看護師には、年齢的にも、「いまさら勉強しなくていい」という専門職らしからぬ発言もあるという。 ・ 看護協会だけではなく、新潟県のキャリア形成訪問支援事業を利用すべき。 ・ VOD (Video On Demand)での講演会を企画すべき。 ・ 新卒の看護師には、就職の際に、民間の派遣・仲介会社には、なるべく登録しないように助言すべきではないか。 ・ 病棟勤務の看護師に、施設の看護師の実情や苦悩をしっかりと説明しなければならない。という思いを伝えるのが看護師職能Ⅱ委員の使命である。これからも職能ⅠとⅡの協働を推し進めなければならない。 				
企画の評価	・ 活発に意見交換ができ、問題点の共有化は図れた。今後の研修会でも引き続き情報共有と問題解決に寄与したい				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職能Ⅰ、Ⅱ領域の相互理解と連携強化 ・ 看護協会への入会促進と、より有意義な研修会の企画運営 				
担当者	本間美知子・高橋英樹・外山章子・柿村美幸・渡辺真奈美・渡辺秀子 ◎村川英伸				

テーマ	施設管理者研修 「 施設で働き続ける為の OJT 」				
領域	看護師職能Ⅱ領域	会場	看護研修センター 3階大研修室	受講料	会員・非会員とも無料
対象	看護職の学習段階レベル（ⅣまたはⅤ）その他の職種はリーダー以上 募集数（80人）応募数（78人）参加数（73人）会員数（41人）非会員数（32人）				
日時	平成29年11月25日（土曜日） 9：30～16：00				
ねらい （目標）	施設リーダーとして必要な知識について学び、グループワークを通して、 安定的な事業・施設運営につながる経営的視点（人材育成と経営参画の知識）を 深める。				
講師	関谷 裕一 氏 （「株式会社マイステルジャパン」代表取締役）				
内容・方法	10:00～12:00 講演「 施設で働き続ける為の OJT 」 12:00～13:00 休憩 13:00～14:40 グループワーク（その後10分休憩） 14:50～15:30 発表 15:30～16:00 質疑応答 講評				
結果・評価 （受講者の意見 感想含む）	<p>評価方法：自記式質問紙による回答を集計</p> <p>内容の満足度は、満足・ほぼ満足と回答した受講者が94%で、この内容を職場（現場）に活かすことができると回答した受講者は84%だった。</p> <p>意見・感想として、</p> <p>「職員の不満がたくさん聞こえてくると、確かに雰囲気が悪くなるを感じる」</p> <p>「リーダーとしての立場を改めて自分のものとして部下の人達へ広い視野をもって伝えていけるように努力したい」「人材確保の為の対策を会社一体となって集める時代なのだと感じた」「違う職種の先生からの講義は新鮮でわかりやすく、ためになる内容でした」「今日の研修の内容を職場でまずは自分が行って行こうとは思いますが、周りも行ってくれるのには時間がかかると思う」などがあり、研修会全体としては、講義の前段では受講者の表情が硬かった感があったが、グループワークの時間では活発に意見交換されており、情報共有がなされていた。</p>				
企画の評価	<p>今回の研修会は、医療福祉系の管理者ではなく、異業種（病院施設等への食事サービス業）の講師からの講義であり、看護職だけではなく介護職員も参加した。モデルとしてすぐに使える知識というより、広く経営的視点と人材育成についてを学んだ形になった。</p> <p>グループワークでも、職場や人材育成等の問題点の共有はできていたが、それらの問題点に対し、簡単に解決できるものではないことも再確認されていた</p>				
課題	講師の意向で配布資料はなかったが、受講者側からは、講義内容を書き留める時間が足りないとの意見もあり、講師との調整段階で、研修会担当委員による部分的な資料作成も考慮すべきだったとされた。委員からも同内容の研修は継続開催すべきとされ、受講者も看護師に限らず介護職にも案内する方向で検討したい。				
担当者	本間美知子・高橋英樹・外山章子・渡辺秀子・柿村美幸・◎村川英伸				

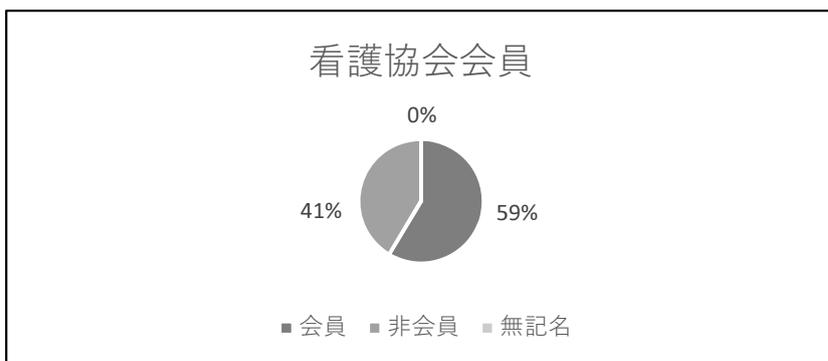
H29年11月25日(土)

研修総出席数	73名
アンケート総数	70

1. 看護協会会員について

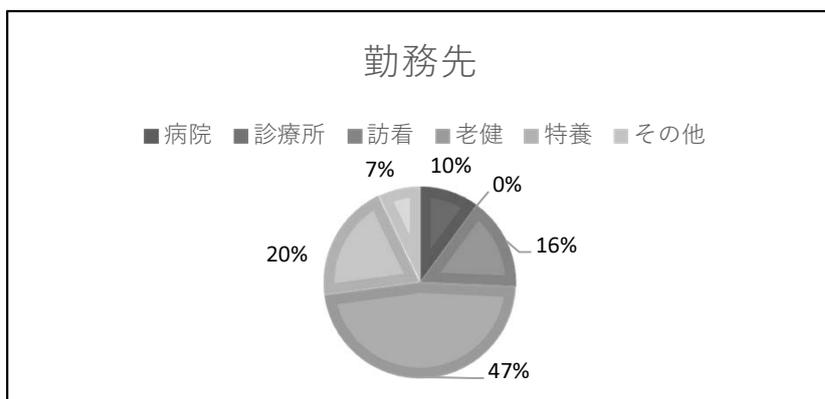
会員	非会員	無記名	計
41	29	0	70

介護 22/70名



2. 所属について教えてください

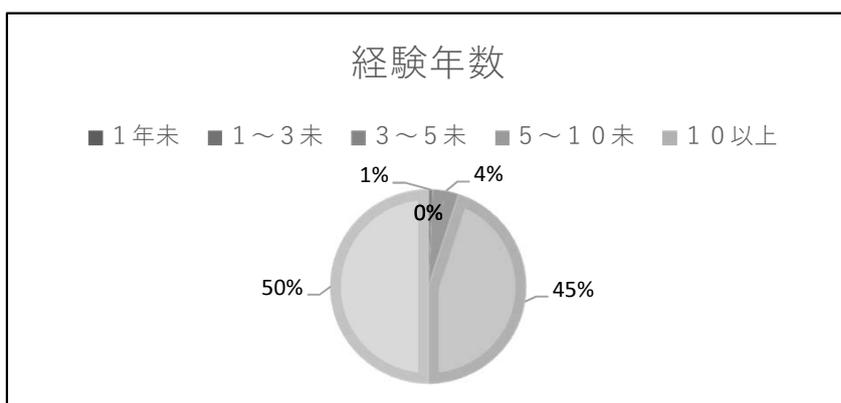
病院	診療所	訪看	老健	特養	その他	計	無記入
7	0	11	33	14	5	70	0



その他の内訳
 有料3名、
 障害者1名、
 居宅1名

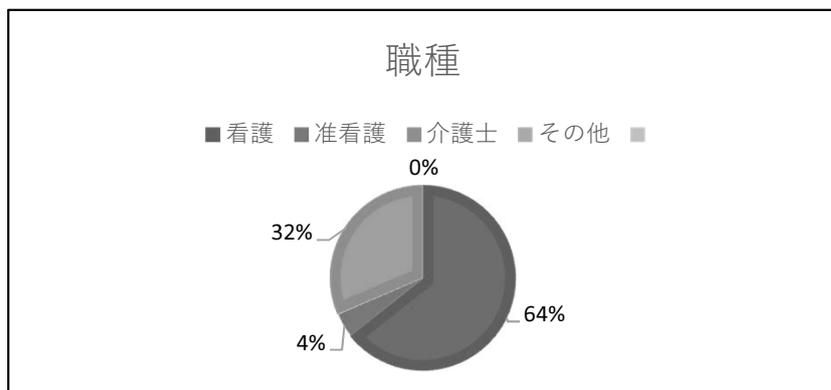
3. 経験年数

1年未	1～3未	3～5未	5～10未	10以上	計
0	0	1	6	63	70



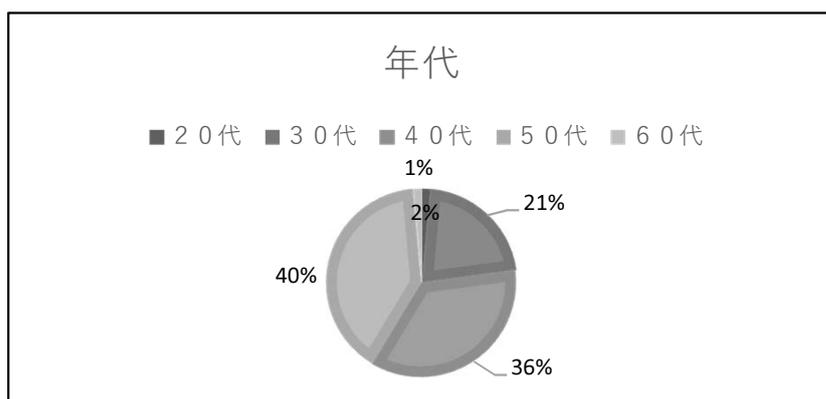
4. 職種

看護	准看護	介護士	その他	計
45	3	22	0	70



5. 年代

20代	30代	40代	50代	60代	計
1	15	25	28	1	70



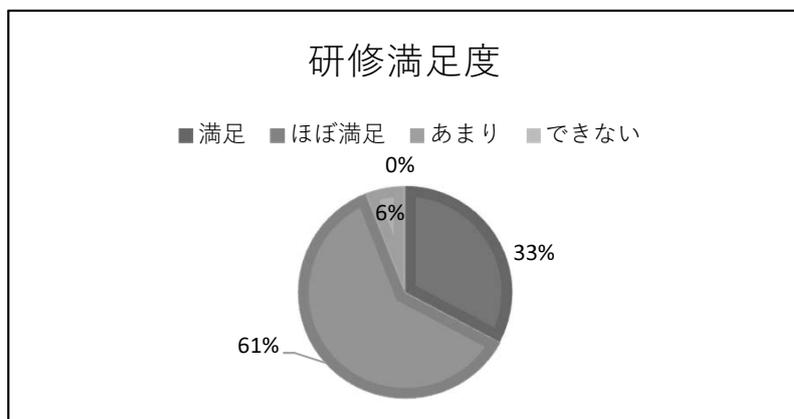
介護

20代	1
30代	9
40代	9
50代	2
60代	0

6. 研修満足度

満足	ほぼ満足	あまり	できない	計
22	41	4	0	67

無記名
3

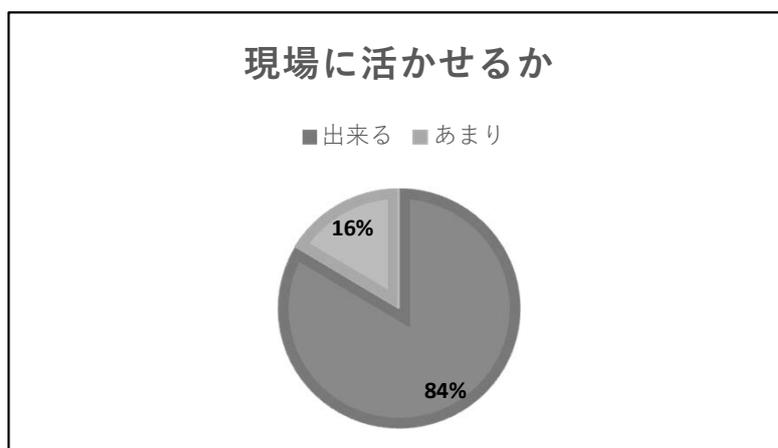


介護

満足	6
ほぼ満足	14
あまり	0
できない	0
無記名	2

7. 今後現場に活かすことができますか

出来る	あまり	計	出来ない	無記名
56	11	67	0	3



介護

出来る	16
あまり	4
できない	0
無記名	2

8. 感想要望

- ・様々な職種の意見が聞けて良かった
- ・職員の不満が沢山聞こえてくると、確かに雰囲気が悪くなると感じる。
- ・社内アンケートを実施し、職員の思いを知ることも必要かと感じ、実践してみたいと思った
- ・経営参画について、話がききにくかった
- ・内容がとても細かくて書き取ることが大変で、書いている最中に次のページへ動いてしまい最期まで書ききれぬ事が出来なくて困りました。レジメがあると良かったです。
- ・リーダーとしての立場を改めて自分のものとして部下の人達へ広い視野をもって伝えていけるように努力したいと思いました。
- ・なかなか取り組みに時間がかかるかもしれませんが、少しずつでも改善につなげていきたい
- ・会社の取り組みとして色々な事をされ、さらにパワーアップを図っている事に驚きました。
- ・人材確保の為の対策を会社一体となって集める時代なんだと感じました。
- ・グループワーク、施設が違う為、現状を知ることはできたが、対策に対しては？という感想
- ・他施設との意見交換が出来てよかった。
- ・セントラルキッチン、食品会社の講師でしたが、逆に福祉、医療と違う世界からの見方、考え方が新鮮に耳に入りました。
- ・これからを引っ張っていかねばならない自分たちにとって大切にしたいもの、大切にすべきものがよくわかりました。
- ・同じ悩みをもっている事や、取り組みをすることができよかった
- ・午前中のパワーポイントの内容が資料としてあれば嬉しかった。
- ・コーチングの研修をしていただきたい。(上手く思いをひきだせないため)
- ・今回の研修会を活かしていきたいと思いますが、効果を出してゆくには、とても難しい事と思います
- ・講師の大変良いお話だったのですが、書き留めようとしても追いつかずに残るものがあるといいと

感じております。個人情報満載で出せないという事でしたが、ojtの基本的な所等の部分が欲しいと
思っているので、それを分けた形式で出せる所は資料として配って頂きたいです。講師の人にも
今後お願いするときはその部分の配慮をお願いします。

- ・違う職種の先生からの講義は新鮮でわかりやすく、ためになる内容でした。
- ・グループワークでは介護職の人手不足や業務の大変さやマンネリ化を知ることができました。
- ・今日の研修の内容を職場でまずは自分が行って行こうとは思いますが、周りも行ってくれるのは
時間がかかりそうと思う、主任なので上も下もいるわけで上の意識が先生のようにだと下は働き
やすいと思う。しかし、めげずにみんなが働き続けたいと思う職場にしていきたいと思う。
- ・今後現場で活かしていけたら良いとおもっているが、上司、組織を変える所から始めなければ
ならないので難しい…。グループワークで意見のあった新しい風は吹かせられないが、
面談から初めていみようと思う。
- ・同じ施設に勤務する方々との情報共有が有意義であった。
- ・どこも同じような悩みがあり、ほっとすることもあった。それぞれの施設の母体（経営体制）が
異なるので、同じ悩みも同じように解決できない。困難さもあらためて感じた。
- ・他業種の講師の先生のお話は大変良かった。（病院事務方の視点での話など…）
- ・4年で80人以上を看取ってきました。その中で1割程が癌ターミナルに近い状態でした。
- ・今後施設でも増えていくであろう、癌ターミナルについて学びたいと思います。
- ・ご家族対応、麻薬管理等、老衰のターミナルとは違う難しさがあると思います。

以下は1人だけの意見

新発田支部所属の看護師です。本日3職能合同で伊勢みずほ様の講演会です。先方の都合もあり
新発田支部の予定をずらすことは難しいと思います。講演会に参加する予定だったので残念です。
可能なら重ならないような日程を希望します。

看護、介護の現場にはあまり役に立ちません！！自分の会社のことに圧倒的で意味のないじかんでした。

平成30年度看護師職能委員会Ⅱ活動方針（案）

目標

- 1 支部職能委員との連携をはかり、看護師職能領域Ⅱの問題・課題の抽出を行う
- 2 看護職の質向上のため研修会・勉強会を実施する
- 3 看護師職能Ⅱ領域の看護協会入会者増加に向けた取り組み

活動内容

- 1 看護師職能Ⅰ・Ⅱ合同集会

日 時：平成30年6月20日(水)

場 所：新潟グランドホテル

平成29年度活動報告及び平成30年度活動方針

テーマ：特別講演「看護師という生き方」

講 師：宮子 あずさ 氏

非常勤訪問看護師、大学非常勤講師、コラムニスト 博士（看護学）

座 長：看護師職能Ⅰ委員長 田中 京子

- 2 「摂食・嚥下研修」

日 時：平成30年7月7日（土）

場 所：NSGカレッジリーグ学生総合プラザSTEP

講 師：鞍立 常行 氏 くらたて歯科医院（新潟県小千谷市）院長

- 3 「支部職能代表者会議」

日 時：未定

場 所：新潟県看護研修センター

対象者：看護師職能Ⅱ各支部委員

- 4 「看護師職能Ⅱ領域管理者研修」

日 時：平成30年11月10日（土）

場 所：新潟県看護研修センター

講 師：鈴木 恵美子 氏 一般社団法人横浜メディカルグループ 看護部長
神奈川県看護協会 職能Ⅱ委員長

平成30年度

新潟県看護協会

職

能

集

会

公益社団法人

新潟県看護協会